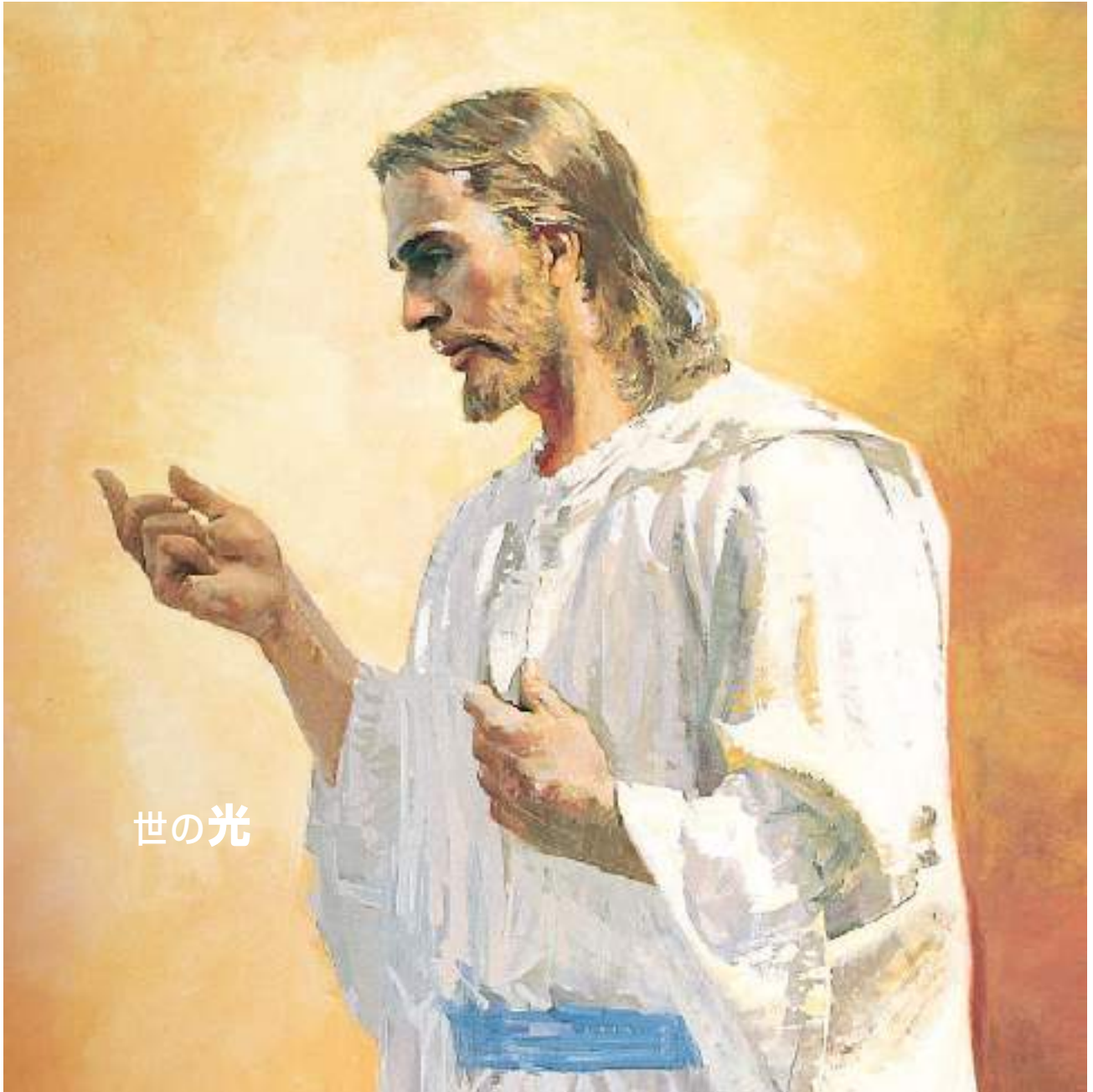


# リアホナ

皆の思いをイエス・キリストへ



世の光

## バラード会長からのメッセージ

救い主の光を分かち合う,  
4ページ

## 新約聖書

『わたしに従ってきなさい』の研究に備える,  
38ページ



## 世の光

この地上での人生を旅する中で、わたしたちは家族の困難な状況を含め、数々の試練に遭います。このような試練は、見捨てられたと感じたり、不安になったり、落ち込んだりする原因となる可能性があります。まことの光の源であられる救い主イエス・キリストに頼るなら、わたしたちは困難な状況をより上手に乗り越えることができるでしょう。

今月号では、M・ラッセル・バラード会長が、問題を乗り越えるための道を見いだす方法を教えています。バラード会長は、「[キリストの] 光が……わたしたちの中やわたしたちの思いからこの世の影を取り除いてくれます」と言っています (6 ページ)。

元結婚・家族セラピストとして、わたしは大きな試練に直面している多くの家族とともに働きました。キリストを生活に取り入れる時間を毎日取る家族は、困難に立ち向かう中で主の光と愛がともにあることを見いだしました。8 ページのわたしの記事で、それらの話をいくつか紹介しています。

自分の仕事を通して、家族や個人が救い主とともにシオンの民となる道を歩むのを見る神聖な機会に感謝しています (モーセ 7 : 18 参照)。だれかの人生に主の御手を見る度に、わたしはそこに少し天を垣間見ました。

感謝を込めて、



クリスティ・モンソン

◀ 「彼らはイエスが海の上を歩いておられるのを見て、幽霊だと思い、大声で叫んだ。みんなの者がそれを見て、おじ恐れたからである。しかし、イエスはすぐ彼らに声をかけ、『しっかりするのだ。わたしである。恐れることはない』と言われた。」

マルコ 6 : 49 - 50



「穏やかで静かなひとときに、御霊にかかわる事柄のための時間を作るとき、……主の光が〔わたしの〕心の中でより明るく燃え〔ます〕。」

— M・ラッセル・バラード会長、  
6 ページ参照

特集

末日聖徒イエス・キリスト教会の公式機関誌

リアホナ  
2023年1月号  
第47巻1号  
(18904 300)

表紙



「イエス・キリスト」の一部、ハリー・アンダーソン画

## 目次

## 4 命の光

M・ラッセル・バラード会長

救い主の光を受け、その光を人々と分かち合う方法を学びましょう。

## 8 人間関係における困難を乗り越える

クリスティ・モンソン

人間関係において主の助けを求めることは、わたしたちのコミュニケーションを改善し、愛を増し加え、必要な変化を起こす助けとなります。

## 12 不可欠な家族の会話

ジェイ・ゴウエン

「不可欠な会話」とは何でしょうか。家族が人生における困難を乗り越えるうえでどのような助けとなるのでしょうか。

## 16 親のために

家族と世の光

## 18 世界の教会

ニュージーランド、オークランド

## 20 ミニスタリングの原則

さらに深い知識をもってミニスタリングを行う

## 22 福音の基本

家族は永遠です

## 25 信仰の肖像

模範の力

アギム・デダ

## 26 末日聖徒の声

聖霊の助けを受けて関係を築くことについての、世界中の会員からの靈感あふれる話。

## 36 信仰をもって歳を重ねる

慢性疾患にかかったとき

ノーマン・C・ヒル

長きにわたる健康上の問題とつきあっていくことが、どのようにわたしたちの生活に霊的な強さと目的をもたらすかを学びましょう。

大管長会：ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オーグス、ヘンリー・B・アイリング

十二使徒定員会：M・ラッセル・バラード、ジェフリー・R・ホランド、ティーター・F・ワークトドルフ、デビッド・A・ベドナー、クエンティン・L・クック、D・トッド・クリストファーソン、ニール・L・アンダーセン、ロナルド・A・ラズバンド、ゲリー・E・スティープソン、テール・G・レンランド、グレット・W・ゴング、クリス・ソアレス

編集長：アンソニー・D・パーキンズ

顧問：シャロン・ユーバンク、ウォルター・F・ゴンザ

レス、ジャン・E・ニューマン、マイケル・T・リングウッド

実務運営ディレクター：リチャード・I・ヒートン

教会機関誌ディレクター：アーロン・ジョンストン

ビジネスマネージャー：ガフ・キャノン

編集主幹：アダム・C・オルソン

編集主幹補佐：ブリタニー・ビーティ、ライアン・カー、C・マシュー・フリットン、ミンディー・セル

出版補佐：ナンシー・サットン

編集委員：ギャレット・H・ガーフ、チャケル・ワードレイ・ハー

バート、マイケル・R・モリス、リチャード・M・ロムニー、アリソン・R・ウッド

編集インターン：ジョリン・D・ブラウン、ジェイミー・ルシュワル

アートディレクター：タッド・R・ピーターソン

デザイナー：フェイ・P・アンドラス、デビッド・グリーン、コリーン・ヒンクレー、エリック・P・ジョンソン、スコット・M・ムーイ

デザインインターン：アリッサ・マクドナルド

版權および許諾コーディネーター：プリシラ・ビール・モッタ

制作主幹：アンモン・ハリス

制作：アイラ・グレン・アデア、ジュリー・バーデット、ホセ・チャベス、ゼーン

R・グレイII、ブライアン・W・ギギ、ミッシェル・ブロクター、マリッサ・M・スミス、ローン・ソロモン

印刷ディレクター：スティープン・T・ルイス

配送ディレクター：ネルソン・ゴンザレス

日本語版翻訳課長：大森陽子

●定期購読は、末日聖徒イエス・キリスト教会公式オンラインストアにてお申し込みください。 <https://store.churchofjesuschrist.org/jpn/ja>

発行所：末日聖徒イエス・キリスト教会

〒106-0047 東京都港区南麻布 5-8-8



## 46 イエスの奇跡

もし水をぶどう酒に変えることができ  
になるのであれば……

アダム・C・オルソン

### 『わたしに従ってきなさい』

## 38 霊的な土壌を整えましょう

ミルトン・カマルゴ兄弟

今年の研究で福音の種を受け入れるために、どのように心を備えればよいでしょうか。

## 42 マタイ2-3章；マルコ1章；ルカ1-3章；ヨハネ1章

新約聖書の研究をサポートする簡潔な記事。

### ヤングアダルト

## 30 「理想と異なる」家族の中に神聖な計らいを見いだす

ジェネット・エリクソン

「現実」と「理想」の間の隔たりが神の神聖な計らいの一部であることに気づくまで、自分は失敗者であるように感じていました。

## 34 虐待、養子縁組—そして癒し

ブレアウナ・P

キリストを生活に招き入れることに決めたとき、わたしは過去からの癒しを受け始めました。

### そのほかの新しい『リアホナ』の記事

毎月、そのほかの『リアホナ』の記事を、[liahona.ChurchofJesusChrist.org](http://liahona.ChurchofJesusChrist.org) または「福音ライブラリー」アプリで御覧いただけます。『わたしに従ってきなさい』や、シングルアダルト、子育て、信仰をもって人生の困難に対処することなど、様々なテーマに関する会員のストーリーや洞察が順番に掲載されます。

### YA ウィークリー

「福音ライブラリー」の「機関誌」または「Adults (成人)」の「ヤングアダルト」にある YA ウィークリーで、ヤングアダルトのための記事をもっと読むことができます。

### つながる

機関誌の各号は、[liahona.ChurchofJesusChrist.org](http://liahona.ChurchofJesusChrist.org) で御覧ください。そのページにあるリンクから、質問、意見、経験を分かち合ってください。

または、[liahona@ChurchofJesusChrist.org](mailto:liahona@ChurchofJesusChrist.org) まで電子メールでお送りいただくか、以下に郵送してください。

Liahona, floor 23  
50 E. North Temple Street  
ユタ州ソルトレーク・シティ  
Salt Lake City, UT 84150-0023, USA



34

価格 年間購読 (国内) 『リアホナ』 1,090 円、『フレンド』 870 円、『For the Strength of Youth—青少年の強さのために』 870 円 (すべて送料込み)

海外在住の方はお近くのディストリビューションセンターへのお申し込みをお勧めします。

郵送先住所: Liahona, Fl. 23, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150-0023, USA.

『リアホナ』(モルモン書に出てくる言葉、「羅針盤」または「指示器」の意)は、以下の言語で出版されています。アルバーニア語、アルメニア語、ビスマラ語、ブルガリア語、カンボジア語、セブアノ語、中国語 (簡体字)、クロアチア語、チェコ語、デンマーク語、オランダ語、英語、エストニア語、フィンランド語、フランス語、ドイツ語、ギリシャ語、ハンガリー語、アイスランド語、インドネシア語、イタリア語、日本語、キリバス語、韓国語、ラトビア語、リトアニア語、マダガスカル語、マラヤーラム語、モンゴリア語、ノルウェー語、ポーランド語、ポルトガル語、

ルーマニア語、ロシア語、サモア語、スロベニア語、スペイン語、スワヒリ語、スウェーデン語、タガログ語、タミル語、タイ語、トンガ語、ウクライナ語、ウルドゥー語、ベトナム語 (発行頻度は言語により異なります。)

© 2022 Intellectual Reserve, Inc. All rights reserved. 印刷: 韓国

著作権情報: 別途記載がない限り、『リアホナ』に掲載されているものは、個人的に、また非営利目的 (教会の召しも含む) で使用する場合に複写することができます。この権利は取り消される可能性があります。視覚資料に関しては、作品の著作権表示に制限が記されている場合には複写できません。著作権に関するご質問は、Intellectual Property Office, 50 E. North Temple St., Fl. 5, Salt Lake City, UT 84150, USA に郵送するか、電子メールで [cor-intellectualproperty@ChurchofJesusChrist.org](mailto:cor-intellectualproperty@ChurchofJesusChrist.org) にお問い合わせください。

For Readers in the United States and Canada: January 2023 Vol. 47 No. 1. LIAHONA (USPS 311-480) English (ISSN 1080-9554) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150. USA subscription price is

\$10.00 per year; Canada, \$12.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions to Salt Lake Distribution Center at address below.

Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (American Express, Discover, MasterCard, Visa) may be taken by phone or at store. ChurchofJesusChrist.org. (Canada Post Information: Publication Agreement #40017431)

POSTMASTER: Send all UAA to CFS (see DMM 5071.5.2). NONPOSTAL AND MILITARY FACILITIES: Send address changes to Distribution Services, Church Magazines, P.O. Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368, USA.



十二使徒定員会  
会長代理  
M・ラッセル・  
バラード会長

# 命の光

救い主イエス・  
キリストは、昨日も、  
今日も、そして永遠に  
わたって、わたしたち  
の光であり、命であり、  
道であります。

19 48年のある日曜日のことです。日が沈むころ、わたしはイギリスのノッティンガムにあるトレント川のほとりを歩いていました。20歳の宣教師として、少し前に地方部会長に召されたばかりでした。多くの集会やミニスタリングがあり、長く、疲れ果てた一日でしたが、わたしはその業に満足感を覚え、幸せでした。

川沿いを歩きながら、わたしは心の中で祈りました。主からの導きを感じたいと願い、次のように尋ねました。「わたしはあなたが望んでおられることを行っているでしょうか。」

わたしは圧倒されるような平安と理解に包まれました。まさにその瞬間、イエス・キリストがわたしを御存じであって、わたしを愛してくださっていることが分かりました。示現を見たわけでも、声を聞いたわけでもありませんでしたが、もし主がわたしの前に立ち、わたしの名前を呼ばれたとしても、イエス・キリストの實在と神性について、ここまで力強く知ることはなかったでしょう。

この心地よい、心温まる経験は、わたしの人生を形作ってきました。その日から今日まで、わたしが下した重要な決断はすべて、救い主に関するわたしの知識の影響を受けてきました。長年にわたり、世界中で、わたしはイエス・キリストが神の御子であり、世の光であられることを証してきました。主のもとに来て、主に従い、生活の中で主の光を感じることは、わたしたちの特権です。





太陽, 月, 星, 地球を創造し, それらに光を与える力は, 救い主からもたらされたものでした(教義と聖約 88:7-10 参照)。主は正当に, 次のように宣言しておられます。「わたしは世の光である。わたしに従って来る者は, やみのうちを歩くことがなく, 命の光をもつであろう。」(ヨハネ 8:12。ヨハネ 9:5 も参照)

大管長会第一顧問のダリン・H・オークス管長はこう言っています。「イエス・キリストは世の光です。なぜならイエスは、『広大な空間を満たすために神の前から発している』〔教義と聖約 88:12〕光の源だからです。」救い主の光は, 「世に来るすべての人を照らすまことの光」(教義と聖約 93:2。84:46 も参照) です。この光によって, わたしたちは「善悪を」(モロナイ 7:16) 判断する方法を知ることができます。この普遍的な光は, 「真理の光」, 「キリストの光」, 「キリストの御霊」(教義と聖約 88:6; 88:7; モロナイ 7:16) として知られています。<sup>1</sup>

使徒ヨハネは次のように言っています。「光はやみの中に輝いている。そして, やみはこれに勝たなかった。」(ヨハネ 1:5) 今日, サタンは神の子供たちを暗闇に引き込み, 「光〔と〕命〔と〕世の真理」(エテル 4:12) を締め出そうと躍起になっています。

主の光と真理を失うとき, わたしたちは救い主とその福音を十分に理解することが, あるいはその価値を正しく認識することができ

## 世の光

その記憶に残る伝道中の経験から何年もたったある晩, 妻のバーバラとわたしは空を眺めていました。その夜は特に明るく美しく見えた何百万もの星を, 畏敬の念を抱きながら見上げました。わたしは主がモーセに語られた言葉について, 驚嘆の思いとともに考え始めました。「無数の世界を, わたしは創造した。また, わたし自身に目的があってこれらを創造した。子によって, わたしはこれらを創造した。子とは, わたしの独り子のことである。」(モーセ 1:33)

ません。しかし、悔い改めて主に従い、主に仕え、主を礼拝するならば、暗闇に打ち勝つことができます。主の光が戻り、わたしたちの中やわたしたちの思いからこの世の影を取り除いてくれます。

## 光によって受ける祝福

世界が暗く、不安定になっていくにつれ、生活の中で主の光を感じることは難しく思えるかもしれません。しかしラッセル・M・ネルソン大管長は次のように教えています。「苦難に伴う暗闇が深まると、イエス・キリストの光がさらに明るく輝きます。」<sup>2</sup>

バーバラと一緒に過ごしたあの晩のように、穏やかで静かなひとときに、御霊にかかわる事柄のための時間を作るとき、わたしは主の光が心の中でより明るく燃えることが分かりました。そ



バラード長老は1948年から1950年までイギリスで伝道しました。

のとき、霊的な印象や導きや光が、わたしたちに与えられるのです。そのとき、救い主がいてくださることがどれほど大きな祝福であるかを、わたしたちは理解するようになるのです。

世の光として、救い主は模範と教えによって、わたしたちの現世の旅路を照らしてくださいます(ヨハネ8:12参照)。愛と思いやりをもって、わたしたちの荷を軽くしてくださいます(マタイ11:28-30参照)。その贖罪を通して、希望と癒しをもってわたしたちの心を軽くしてくださいます(モロナイ7:41参照)。そして「真理の御霊」(教義と聖約6:15。11:13も参照)によって、わたしたちの思いを照らしてくださいます。

十二使徒定員会のデビッド・A・ベドナー長老は次のように述べています。「人生のあらゆる時期に、出遭うすべての状況で、直面するそれぞれのチャレンジにおいて、イエス・キリストは光であります。その光は恐れを消し去り、確信と導きを与え、恒久的な平安と喜びをもたらします。」<sup>3</sup>

## あなたがたの光を掲げなさい

救い主の光を人々に分かち合い、主のもとに来て主の愛を感じるように招くという特権は、わたしにとって常に特別なものとなってきました。イギリスでの宣教師としての日々はすばらしい時間でした。カナダでの伝道部会長としての日々もすばらしい時間でした。そして十二使徒定員会の会員としての現在の召しが大好きです。わたしの召しは、世界中でイエス・キリストについて証し、回復のメッセージを分かち合う機会を与えてくれます。

いにしへの時代、救い主は弟子たちに次のように言われました。

「あなたがたは、世の光である。山の上にある町は隠れることができない。……

そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かし、そして、人々があなたがたのよいおこないを見て、天にいますあなたがたの父をあがめるようにしなさい。」(マタイ5:14, 16)

ニーファイの民に向かって、主は次のように言われました。「見よ、あなたがたの掲げる光とは、わたしである。すなわち、わたしが行うのをあなたがたが見た、その行いである。」さらにこう言われました。「あなたがたは、わたしの教会で行わなければならないことを知っている。わたしがするのを見たその行いを、あなたがたもしなさい。」(3ニーファイ18:24; 27:21)

今日、救い主は同じように、御自分の光を用いて「暗闇を[わたしたち]の中から追い払う」(教義と聖約50:25)よう、御自分の弟子たち



に期待しておられます。わたしたちの光は、イエスが愛されたように愛するときに輝きます。わたしたちの光は、回復と、キリストに対して抱く望みについて証を分かち合うときに輝きます。わたしたちの光は、真理を擁護する声を上げるときに輝きます。わたしたちの光が輝くとき、わたしたちは人々をその光の源に引き寄せます。

無私の奉仕をしてください。そうすれば心の中に主の光を感じるでしょう。福音を分かち合う機会を謙遜に祈り求めてください。そうすれば主の光を受け入れる備えのできている人々のもとに導かれるでしょう。大小様々な方法で人々を愛してください。そして皆さんはこの世界をより良く、より明るくするのはです。

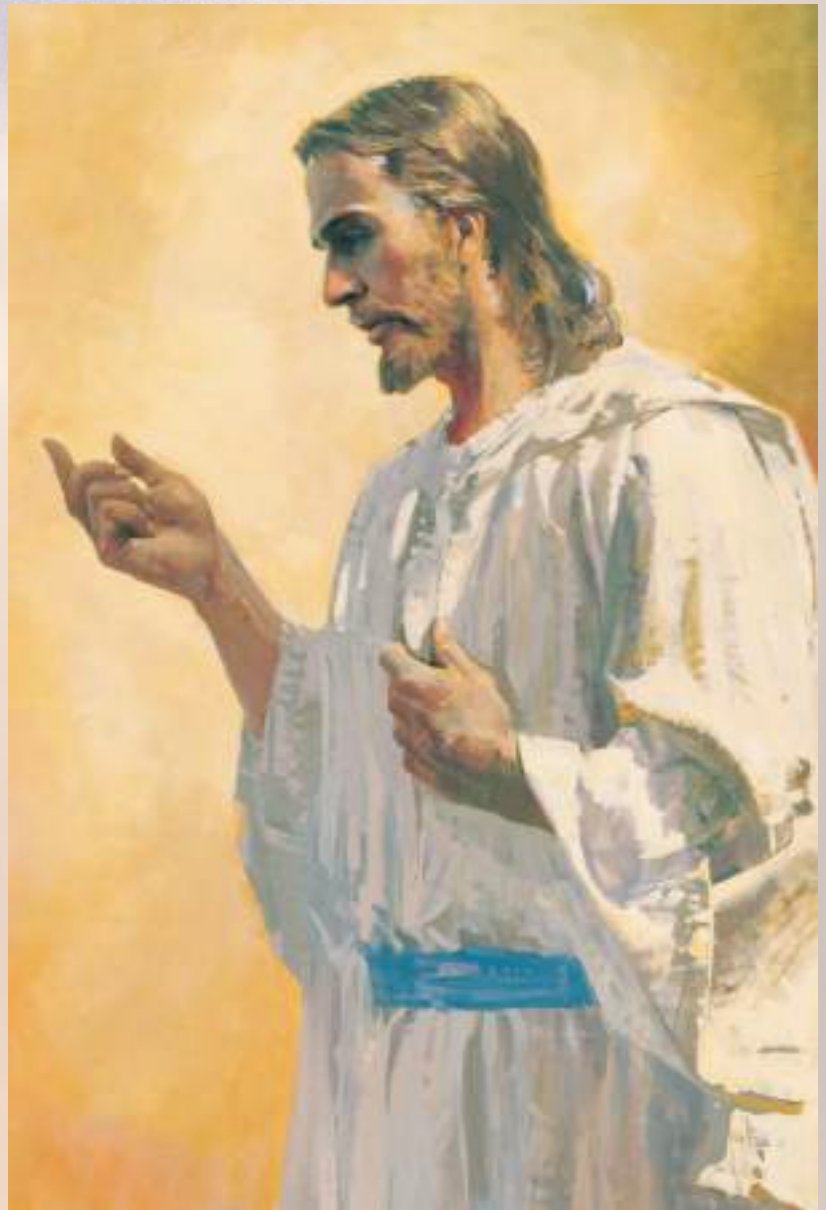
## 無窮の光

わたしはイエスがキリストであられると自分自身で知ることができた、イギリスでの若い宣教師としての経験に、永遠に感謝しています。人生における様々な試練と喜びを経験してきた今、わたしはそのことをよりいっそう確かに知っています。

教会での奉仕を通して、わたしは驚くべき特別な霊的な経験をする祝福にあずかってきました。それはあまりに数多く、その幾つかは話すことができないほど神聖なものです。イエスがキリストであり、永遠の御父の御子、全人類の救い主、贖い主であられるというわたしの確かな証以上に、わたしが子供たちや孫たち、ひ孫たち、そして世界中にいるわたしの友である皆さんに贈ることができる、大切に貴い贈り物はありません。

わたしの大切な妻、バーバラは、2018年に亡くなりました。神殿での結び固めとイエス・キリストのおかげで、わたしたちは家族とともに、永遠に再び一緒にいられると知っていることに、わたしはどれほど感謝していることでしょうか。

時には疲れることもあります。そのようなとき、わたしは立ち止まって救い主の絵を見ます。ゲ



ツセマネでの主のことを思うと、すぐに疲れが吹き飛ぶのです。主が世に打ち勝たれたので、「やみは過ぎ去り、まことの光がすでに輝いている」(1ヨハネ2:8)ことを、わたしは心で知っています。

わたしはイエス・キリストが生きておられることを知っています。「キリストは……決して暗くなることのない無窮の光」(モーサヤ16:9)です。主は昨日も、今日も、そして永遠にわたって、わたしたちの光であり、命であり、道であられます。わたしたちが確固として主に従い、世の人々の前で主の光を輝かせられますように。■

注

1. ダリン・H・オークス「世の光にしてまた世の生命」『聖徒の道』1988年1月号, 68 参照
2. ラッセル・M・ネルソン「彼に聞きなさい」『リアホナ』2020年5月号, 88
3. デビッド・A・ベドナー「世の光であり命である」(大管長会クリスマス・ディボーションナル, 2015年12月6日), [broadcasts.ChurchofJesusChrist.org](https://broadcasts.ChurchofJesusChrist.org)

# 人間関係における 困難を 乗り越える

わたしたちが変わり、改善するために進んで主の助けを  
求めるならば、家族の試練を乗り越えることができます。

元結婚・家族セラピスト  
クリスティ・モンソン

**家**族関係における困難を乗り越えようと進んでいく中で、わたしたちは情緒的な限界まで試されます。セラピストとして、わたしは胸が締め付けられる状況を何度も目にしました。しかし同時に、主の助けを求めることによって家族の試練に立ち向かう人たちの人生が祝福されるのを見ました。彼らは主の助けを求めながら、コミュニケーションを改善し、愛と理解を深め、重要な変化を起こすためにともに取り組みました。主の助けを受けて、彼らは問題を通して成長する強さを見いだしました。

## キリストのようなコミュニケーションは愛と理解をもたらす

トムとジョアン（仮名）は、二人とも伴侶を失っていました。トムの妻はがんで亡くなり、ジョアンの夫は依存症のために、別の人たちのもとへと去って行きました。トムとジョアンは独身会員のカンファレンスで出会い、再婚を心待ちにしていました。

彼らにはそれぞれに15歳以下の子供たちがいました。二人の家族は何度か一緒に出かけていましたが、トムもジョアンも、家族が一緒になった場合に起こり得る問題に気づいていました。人生のこの新しい章を進んでいくために、彼らは健全な方法でコミュニケーションを取る方法についてのアイデアを求めてカウンセリングにやって来たのでした。

わたしは、十二使徒定員会会長代理のM・ラッセル・バラード会長による、家族評議会についてのメッセージを読むように提案しました。バラード会長はこう教えています。「子供たちは、進んで彼らの話に耳を傾けてくれる両親を心から必要としています。家族評議会を開くことで、家族が互いに理解し合い、愛し合えるようになる時間を持つことができます。」<sup>1</sup>





家族評議会のために、彼らは以下の議事予定案を決めました：

1. 問題を明確にする。
2. 解決方法をブレインストーミングする。
3. 計画を選ぶ。
4. 計画を実行する。
5. 翌週、計画がうまくいったかを評価し、必要に応じて計画を再検討する。

家族で話し合うことに加えて、トムとジョアンは、家族関係におけるストレス度が高いときには一対一のコミュニケーションを改善する方法も学ぶ必要があることを学びました。

トムとジョアンは、子供とのコミュニケーションや関係を改善するのに役立つ幾つかの技術を学びました。

- 両親として子供たちに関する問題の解決策を見いだすために団結しました。
- もし子供が日々の務めを終えるのに苦労していたら、親の一人がその子と一緒に時間を過ごし、務めを終えようと取り組んでいる間、その日の出来事について語り合いました。

- 毎週、子供たち一人一人との関係を深めるための時間を取りました。
- 解決指向の「理性」の脳（話し合い）に代わって「感情」の脳（大声を上げること）が活発になったときには少し休憩を取ることを、前もって決めておきました。
- 親子の間に主導権争いが起きたときはいつでも、親はそうするよという印象を受けたときには引き下がり、後で戻って来て新しい解決策についてブレインストーミングしました。

家族関係の試練に対して、信仰に満ちた健全な方法で対処しようと家族が最善を尽くし、問題について話し合い、一緒に取り組んだとき、トムとジョアンは子供たちも自分たち自身も大切な成長を遂げていることに気づきました。


## 理解と愛はわたしたちを近づける

子供は大人になるとき、必ずしもわたしたちが望むような選択をするとはかぎりません。そのような状況にどう対処すればよいでしょうか。彼らの人生の中で支えとなり、義にかなった影響を与え続けることができるように、わたしたちはどうすれば関係を維持し、さらに強めることができるでしょうか。

テリーと夫のブルースがわたしのオフィスにやっ







て来たのは、テリーが息子のセスと電話でけんかした直後のことでした。セスは学業のために3年間家を離れていました。深刻な病気を患っていて、まだ医師の治療から解放されていませんでした。そのため、伝道には出ていませんでした。テリーとブルースは、セスの証がどのような状態であるか、さらにはセスが教会に出席しているかどうかさえも知りませんでした。セスの新しいガールフレンドのジョリンが、セスの生活に親の望みとは異なる影響を与えているのではないかと心配していました。両親はともに、セスが歩んでいる道についてどうしてよいか分からず、うろたえていました。

彼らにできることについて話す中で、わたしたちは失われた羊のたとえについて話し合いました。羊飼いは恐らく、子羊を見つけ、愛情を込めて慈しみ、群れに連れ戻す前に、子羊の鳴き声に耳を傾けたことでしょう（ルカ15:6参照）。テリーとブルースは、自分たちにはセスを変えることはできないことを認め、それでも彼の話に耳を傾け、愛し、家に招いてみることにしました。セスの妻となる人や人生の道を彼に代わって選ぶことはできませんが、家族が彼を愛しており、福音を愛していることを、セスに思い起こしてもらうことはできます。

テリーはセスに電話をかけ、口論について謝りました。伝道に出ていないので恥ずかしく思っていると話すセスの言葉に、ただ耳を傾けました。セスはどのように自分が教会の女の子とデートできるだろうと悩んでいました。テリーとブルースは学校が休みの間にセスとジョリンを家に招きました。

セスとジョリンがやって来ました。セスの姉妹たちが一緒に集いました。両親はセスが家に帰って来たことをとてもうれしく思い、彼にそう伝えまし

た。テリーとブルースは、もっと頻繁にセスと連絡を取るようになりました。テリーは週に数回メールを送りました。毎週日曜日に家族でビデオ通話をしました。セスと父親は一緒にゴルフや釣りをして時間を過ごしました。ゆっくりではありましたが、セスは再び家族に溶け込んでいきました。最終的に、セスはジョリンの選んでいる道は自分にとって正しくないと判断しました。後に、自分がバプテスマを施したすばらしい女性と結婚しました。

テリーとブルースは、耳を傾け、愛し、群れに戻るように招くことによって、失われた子羊を見つけました。

### 一緒に変化に取り組むことは関係を強め、成長を促す

マリーと夫のデビッドは結婚して何年もたっており、地域の人々から尊敬されていました。ところがある日、マリーはデビッドが別の女性と親密な関係になっていることを、本人には気づかれずに知りました。

マリーは怒りと苦悩と悲しみとが混ざり合った状態で、わたしのオフィスにやって来ました。終始むせび泣きながら話したマリーは、デビッドに自分の気持ちを伝える必要があること、ただし御霊がともにいてくださるように、怒りに任せた話し方をしてはいけないことを知っていました。

よく祈って準備した後、マリーはデビッドに、彼を愛しているけれども、別の女性との関係を知って打ちのめされたと伝えました。二人は、ビショップと会って結婚生活の今後について考える必要があ



りました。デビッドは妻や家族を失いたくありませんでした。ビショップの助けを受けて、悔い改めの過程を歩み始めました。

マリーは、個人として、また夫婦として癒しを見いだすために、それぞれが行う必要のある事柄があることを知っていました。マリーはデビッドに、自分の気持ちを整理する間、しばらく彼の両親のところに滞在するよう頼みました。マリーは神殿で時間を過ごし、主に助けを求めました。セラピーを受け続け、コミュニケーションスキルを高め、適切な境界線を設ける方法を学びました。

マリーとデビッドは一緒に：

- 毎晩聖文を読みました。
- 祈りました。
- 毎日の出来事を分かち合いました。
- 週に1度、夜にデートをしました。

二人はもっと率直にコミュニケーションを取りました。マリーは自分の思うことを話し、デビッドは耳を傾けました。二人は新婚当初と同じように会話を交わすようになりました。

マリーは、変わったのはデビッドだけではなく、自分も変わったと言います。自分は強くなったと感じ、自信が増しました。デビッドは悔い改めを続け、家に帰って来ました。

日々の生活に主を迎え入れることにより、二人の関係にさらに大きな信頼と愛がもたらされました。二人とも、主の助けを受けてこの困難を乗り越えようと努力したことで自分たちは強められたと感じました。

### キリストの言葉がわたしたちを導いてくれる

家族関係における難しい状況を乗り越えようとするとき、わたしたち皆が、主とともに評議会の席に着くことを忘れませんように。何をすべきかを主が教えてくださる時があります。自分で選べる時もあります。「わたしがすべてのことを命じるのは適切ではない。」(教義と聖約 58:26) しかしまだ、自らを主に委ねなければならない時もあります。永遠の観点を持ち続けるならば、永遠の富がわたしたちのものとなり、「万事が〔わたしたち〕の益となるようにともに働く」(教義と聖約 90:24) でしょう。■

注

1.M・ラッセル・バラード「家族評議会」『リアホナ』2016年5月号、65

### つながりの絶たれた関係を救うためのアイデア

わたしたちは家族が永遠にともにいられることを信じています。しかし時々、わたしたちの選択や家族の選択が、その関係を大きく傷つけることがあります。難しい状態にある関係を修復したり強めたりするためのアイデアをいくつか紹介します：

- 個人で、また一緒に、癒しの過程に主にかかわっていただく。
- もし両者とも改善に取り組む意志がないのであれば、有害な関係から離れるための計画を立てる。
- セラピストやビショップなど、外部からの助けを見つける。
- 耳を傾けることを学ぶ。
- 難しい事柄について話す方法を学ぶ。
- 自分の必要なことや望みを述べる。
- 境界線を設ける。
- コミュニケーションが非難的、または批判的になったときには、休憩を取る。
- それぞれが何を変えるかを定めることなく難しい会話を終わらせない。
- 互いに感謝し合う方法を見つける。
- 進んで赦し、赦しを求める。

# 不可欠な家族の 会話

不可欠な会話は、子供たちが自分は何を信じており、なぜそれを信じているのかを知る助けとなります。

公認メンタルヘルスカウンセラー  
ジェイ・ゴーウェン

**あ**る息子が、登山について教えてほしいと父親に頼みました。父親は、計画、安全策、準備、装備を含め、必要な事項をすべて教えました。息子は、緊急時にどうすべきかについてはいつ話し合うのかと尋ねました。父親は、息子を怖がらせたくないと言って、その話が必要になったときにしようと言いました。

二人は訓練を終え、最初の登山としてワシントン州シアトル近郊にあるレーニア山に行きました。その経験と状況は最初は素晴らしいものでしたが、やがて天候が悪化し、間もなく雪崩が迫って来るのが見えました。

事前に話し合っていなかったため、二人はどうすればよいか分かりませんでした。息子は父親に尋ねました。「お父さん、ぼくはもう緊急時にどうすべきかを話し合う準備ができていますか？」

不可欠な会話が、家庭という安全な環境で行われるとき、それはわたしたちが人生の雪崩に備える助けとなります。

「宇宙におけるいちばん大切な第一の真理は、神が……わたしたちを愛しておられるということです」と、十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老は述べています。<sup>1</sup> ホランド長老の言葉は、愛が永遠にわたっても日々の生活においても基であることを思い起こさせてくれます。その愛を前提として、わたしたちが家族と会話をし、つながりを持つことは不可欠です。

夫、父親、スクールカウンセラー、公認メンタルヘルスカウンセラーとして、わたしは家族の会話がきわめて重要であり、先延ばしにするべきではないことを知りました。元中央初等協会会長のジョイ・D・ジョーンズ姉妹は次のように述

べています。「わたしたちは、子供が改心するのをただ待っているだけではいけません。……イエス・キリストの福音に関する家族の会話は、御霊を招くのに不可欠な会話です。」<sup>2</sup>

## 不可欠な会話とは何か

ジョーンズ姉妹は、不可欠な会話とは、「自分が何を信じているかだけでなく、最も肝心な、なぜそれを信じているのかという理由も分かるように、子供たち〔そしてわたしたち一人一人〕を導く」「簡単な、心の通う会話」と定義しています。<sup>3</sup> わたしは、この定義にある簡単なという言葉が好きです。わたしたちの会話は深く、複雑である必要もなければ、計画的である必要もありません。実際、わたしたちが行うことになる最も素晴らしい会話の幾つかは、助けを受けられるようにいつも御霊にとともにいていただくことによって備える以外に、計画の立てようがありません。

ジョーンズ姉妹はさらに次のように教えています。「たまたま改心するというのは、イエス・キリストの福音の原則ではありません。救い主のようになることは、たまたま起こるものではないのです。」<sup>4</sup> それは意識的に時間と努力を注ぎ、教えに教えを加えることで起こるのです。

## どのくらいの頻度で不可欠な会話をするべきか

わたしたちは日々子供たちと話すべきです。不可欠な会話を頻繁に持つほど、それは普通で、自然で、啓発的なものになっていきます。

不可欠な会話の最悪な方法は、まったく会話をしないことです！ わたしたちはよく、今はその時ではない、これは複雑





すぎる、子供たちは理解しないだろう、などと考えがちです。怒らせたり、間違っただけを言ったり、だれかを不快にしたりしたくないと思います。しかし、少なくとも会話をしようと試みることは、何も言わないより良いのです。

## どのように子供たちと不可欠な会話をするか

わたしが見つけた不可欠な会話をするための簡単なレシピは、愛し、耳を傾け、変わることです。そのいずれについてもわたしたちは完全ではないかもしれませんが、絶えずそのパターンに従うよう努力することはできます。

**愛する:**愛を土台とし、生活で実践しなければ、不可欠な会話を最大限に効果的なものとすることはできません。わたしたちが家族の中で何を、いつ、なぜ、どのように行うか、すべては愛によります。子供たちはわたしたちとつながりを持つときに安心感を持てる必要があり、愛はそのきわめて重要な環境を提供します。わたしたちはいつでも愛を示すことができます。イエス・キリストはその方法を示してくださいました。

ジョーンズ姉妹は次のように言っています。「子供たちを養い育て、備えるとき、わたしたちは子供たちに選択の自由を行使させ、子供たちを心から愛し、子供たちに神の戒めと悔い改めの賜物を教えます。そして、何があるかと決して、諦めません。結局のところ、これこそがわたしたち一人一人にとっての主の方法なのではないでしょうか。」<sup>5</sup>

**耳を傾ける:**わたしは自分の失敗を通して、積極的に耳を傾けることが不可欠な会話のきわめて重要な部分であることを学びました。まず耳を傾けることが大切で、自分の2倍相手に話してもらわなければなりません。イエス・キリストは、不可欠な会話をし、積極的に耳を傾けることについての最もすばらしい模範で知られます。ヨハネによる福音書第8章で、パリサイ人たちが姦淫の場で捕まえられた女性をイエスのもとに連れて来たとき、主が女性に対して最初に口にされたのは、幾つかの質問でした。「女よ、みんなはどこにいるか。あなたを罰する者はなかったのか。」(10節) 不可欠な学びを得られるように助けるため、主は教える前に、質問をし、耳を傾けられました。

**変わる:**愛し、耳を傾け、つながったら、それから何をすればよいでしょうか。わたしたちは悔い改め、教え、さらに耳を傾け、仕え、謝り、赦す必要があるでしょうか。不可欠な会話

は、変わる機会を与えてくれるはずで、ラッセル・M・ネルソン大管長が言ったように、わたしたちが「日一日と行いを改善」<sup>6</sup>するべく絶えず努力しているように願っています。

## どうすればもっと頻繁に不可欠な会話ができるか

家族にとって最も効果的な方法については、啓示によって導きを受けることができます。以下はわたしの家族の経験からの提案です:

**家族の聖文研究:**わたしたちが行っていることで、福音についての会話をするのにいちばん助けとなっているものは何かを子供たちに尋ねたところ、『わたしに従ってきなさい』を使って毎晩一緒に聖文を研究していることだという答えが返ってきました。

**断食日曜日ごとに行う家族の証会:**通常、形式張った証会ではなく、家族の一人一人が感じていることや信じていること、悩み、うまくいったことを分かち合う時間です。妻とわたしはいつもイエス・キリストについて証するように努めています。この会は、わたしたちの家庭において最も影響力のある経験の一つとなっています。

**家族の夕食:**夕食中に「今何時?」と尋ねると、子供たちはそれぞれがその日の良かったことを一つ、そしてもっとこうすればよかったと思うことを一つ分かち合う時間だと知っています。これを行うことで、感謝や愛、時にはいらだちの気持ちを表現することができ、この機会がなかったならできなかったであろう福音に満ちた会話につながっていくことが度々あります。

**一対一の会話:**わたしは毎月断食日曜日に、子供の一人一人と一対一で座り、名前を挙げてその子のために祈り、目を見て、質問する時間を大切にしています。彼らの気持ちや必要としていることに耳を傾け、つながろうと努めています。子供たちにとっては最初は奇妙な感じだったかもしれませんが、今ではその時間がないと子供たちは寂しく思うようです。彼らと過ごす時間が何よりも大切で、日々彼らと不可欠な会話をしたいと思っていることを、子供たちに知ってもらえたらと願っています。

**目標の再確認:**わたしたちは毎年1月に、個人、夫婦、家族の目標を立てます。そして毎月、聖文研究の時間や家庭の夕べのレッスンの中で、成長の度合いと目標の達成度について





話し合います。これが不可欠な会話につながっていきます。

**夫婦または親としての協力:**毎週日曜日の夜、妻と一緒に週のカレンダーを確認しながら、どのように感じているか、何に苦勞しているか、どのような助けが必要かを、互いに尋ね合います。結婚生活や子供たち一人一人について、またそれぞれの心にイエス・キリストの福音をさらに根付かせるために何をする必要があるかについて、不可欠な会話をします。

妻はわたしよりもはるかに良い聞き手であり、わたしたちがバランスを保ち、聖約の道に焦点を当てられるよう、とても上手に助けてくれます。妻から多くのことを学んでおり、彼女が永遠にわたしを選んできたことはすばらしい祝福です。

わたしの家族はこれらすべてのことを完璧に行っているわけではありませんが、最善を尽くし、努力し続けています。

### 雪崩がやって来る前に準備をする

人生の雪崩が結婚生活や子供たち、そのほかの人間関係に迫って来るまで待たないでください。雪崩は起こるものであり、あとはいつ起こるかの問題です。福音やそのほかの不可欠な会話はわたしたちに最高の備えをもたらしてくれますが、それはそうした会話を意図的に、定期的を持つ場合だけです。

妻と子供たち、家族と永遠にともにいることは、わたしの最大の目標であり、不可欠な会話を含めて、わたしが行うすべてのことの目的です。

わたしたちが皆そうであるように、わたしは不十分ですが、

イエス・キリストと悔い改めの力を通して高められています。救い主は、贖罪を通してわたしたちに与えられる完全な希望の輝きと力によって、わたしたちを強くすると約束しておられます。わたしたちは完全である必要はありませんが、改善しようと努力している必要があります。わたしたち一人一人には、受けることができる力があります。失敗することはありません。努力の中にはいつでも成功があります。

ネルソン大管長は次のように約束しています。「人生の中で神に勝利を得ていただく選択をするとき、神が『奇跡の神』〔モルモン9:11〕であられることを身をもって経験しましょう。』<sup>7</sup>その中には、わたしたちの不可欠な会話において神に勝利を得ていただくことが含まれるでしょう。救い主イエス・キリストを通して、これらの不可欠な会話を含め、すべてのことが可能なのです。愛がいつでも主の答えです! ■

筆者はアメリカ合衆国ワシントン州在住です。

#### 注

1. ジェフリー・R・ホランド「最も大いなる資産」『リアホナ』2021年11月号, 9
2. ジョイ・D・ジョーンズ「不可欠な会話」『リアホナ』2021年5月号, 12, 13
3. ジョイ・D・ジョーンズ「不可欠な会話」13
4. ジョイ・D・ジョーンズ「不可欠な会話」12
5. ジョイ・D・ジョーンズ「不可欠な会話」15
6. ラッセル・M・ネルソン「行いを改善し、より良くなれます」『リアホナ』2019年5月号, 67
7. ラッセル・M・ネルソン「神に勝利を」『リアホナ』2020年11月号, 95



# 親のために



## 家族と世の光

### 親愛なる親の皆さん、

家族は、天の御父が御自分の子供たちのために用意された幸福の計画に欠かせない要素です。今月号の記事は、家族内のコミュニケーションを改善し、家族関係における困難を乗り越える助けとなります。この号を使って、新約聖書から幾つかの大切な教えを子供たちに教えることもできます。

### 福音についての話し合い

#### イエス・キリストはわたしたちのまことの光であられる

4 ページからのバラード会長の記事から、世の光としてのイエス・キリストの役割について、幾つかの教えを家族に分かち合ってください。家族で、あなたの家庭の様々な光の源のリストを作り、光がわたしたちのために行う様々な事柄について話し合ってください。霊的な光の最も大いなる源であられるイエス・キリストは、どのような方法でわたしたちを助けてくださるでしょうか。

#### 家族の中での率直なコミュニケーション

人生の試練に対して霊的に備えておくことが大切です。子供たちを強める大切な会話をする方法について、12 ページからのメンタルヘルスカウンセラーの助言を読んでもください。これらの考えや提案のうち、あなた自身の家族とともに実行できるものはどれでしょうか。

#### 御言葉に心を備える

38 ページからの種まきのたとえについてのカマルゴ兄弟の記事を読んでもください。たとえに出てくる異なる種類の土壌が何を象徴しているかを家族と話し合います。年少の子供たちには、たとえに出てくるものの絵を描いてそれについて話してもらい、年長の子供たちには、マルコ 4:3-20 にあるたとえを読んで、自分の考えや質問を分かち合ってもらおうとよいでしょう。

## 『わたしに従ってきなさい』を 家族で楽しく

### 神の助けを受けて難しいことを行う

新約聖書のマリヤといこのエリサベツのように（ルカ1：5 - 55 参照）、時々わたしたちは難しいことを行うように求められ、自分にできるだろうかと思うことがあるかもしれません。

1. バケツや箱など、空の容器を部屋の一方の端に置きます。
2. 家族の一人一人に羽根を一つずつ渡します。
3. 部屋の反対側の端から始めて、家族一人一人に、羽根に息を吹きかけて空中を飛ばしながら部屋を横切り、その容器に入れてもらいます。
4. もっと難しくするためには、30秒に時間を制限し、ストローを使って羽根に息を吹きかけます。不可能になるまで、制限時間をどんどん短くしていきます。

**話し合い：**現世で解決できない問題もあることを念頭に置きながら、「人にはできない事も、神にはできる」（ルカ18：27）という証が強まった経験を分かち合います。人生で不可能と思われる務めを成し遂げるために、毎日どのような小さなステップを踏むことができるでしょうか。

提供：リサ・トーマス

### 『For the Strength of Youth— 青少年の強さのために』から

#### キリストの光を受け、分かち合う

M・ラッセル・バラード会長が、どのようにイエス・キリストの光をさらに生活に取り入れることができるか、そしてどのようにそれを人々に分かち合うことができるかを青少年に教えます。

#### 虐待被害者への支援

虐待の被害を受けた人々に希望と癒しをもたらすうえで、どのようなリソースや支援が利用できるかを御覧ください。

#### 疑問や疑いに対処する

ジャン・E・ニューマン兄弟が、難しい疑問や疑いのために暗闇に囲まれていると感じるときのために役立つ助言を青少年に与えます。

#### 神は何でもおできになる

いにしへの時代にも今日も、神がどのようにわたしたちのために奇跡を行われるかを見てください。



### 『フレンド』から

#### イエスはわたしたちの光であられる

イエスがどのように世の光であられるかについて、ダリン・H・オックス管長からのメッセージを読んでください。その後、聖句マッチングゲームをします。

#### 聖文読書表

1年間子供たちと一緒に聖文を研究するために、この表を使ってください。

#### イギリスでイエスに従う

今年は毎月、異なる国の新しい友達に出会い、彼らが自分の住んでいる場所でどのようにイエスに従っているかを学びます。







# ニュージーランド、 オークランド

オークランドは、国内で最も人口の多い都市部です。ニュージーランド初の末日聖徒イエス・キリスト教会の改宗者は、1854年にバプテスマを受けました。ニュージーランドにおける教会の現状は次のとおりです：



会員数 約 11 万 6,900 人



ステーク 30, ワード・支部 229,  
伝道部 3



改修を終え再奉獻された神殿（ハミルトン） 1,  
建設中の神殿（オークランド） 1

## すべてが証している

キーホー夫妻（ファビアンとアドリエンヌ）と二人の娘は、マロマクバレーの農場での暮らしを満喫しています。アドリエンヌはこのように述べています。「この地の豊かな恵みに感謝しています。これらのものはすべて、愛にあふれた創造主について証しています。」



ニュージーランドにおける  
教会についてさらに知る



# さらに深い知識をもって ミニスタリングを行う

何にでも答えられるようになる必要はありませんが、もっと深く主を知ることは、救い主がされたようにミニスタリングを行う助けとなります。

救い主がされたようにミニスタリングを行う方法を学ぶとき、わたしたちはさらに救い主のようになることができます。2023年、わたしたちは新約聖書に記されているイエス・キリストと弟子たちの模範を用いて、救い主のようにミニスタリングを行うように努めるうえで助けとなる、キリストのような特質を身につける方法を学んでいきます。

## イエスは学びの規範を示された

救い主は成長されるにつれ、「ますます……強くなり、知恵に満ち、そして神の恵みがある上にあ[りまし]

た。」(ルカ 2:40)「ますます……満ち」(英文では *waxed*) という言葉は、月日がたつにつれて月が満ちていくように、少しずつ成長していくことを表しています。ルカはまた、次のように書き加えています。「イエスはますます知恵が加わり、背たけも伸び、そして神と人から愛された。」(ルカ 2:52) イエスは、突如として完全な知識を持たれたわけではなく、時間をかけて知識を身につけられたのです(教義と聖約 93:12-14 参照)。

イエスが12歳のとき、イエスの両親は、エルサレムの礼拝の中心地であっ

た神殿でイエスを見つけました。「[イエスは]教師たちの真ん中に座っておられ……教師たちはイエスの話を聞いたり、またイエスに質問したりしていた[のです]。』(ジョセフ・スミス訳ルカ 2:46 [『聖句ガイド』内「聖書のジョセフ・スミス訳付録」ルカ 2:46) 学ぶことはイエスが成長されるうえで重要な要素であったため、神殿で人々を教える機会が訪れたとき、イエスには備えができていました。神殿でイエスが教えられたことは、その場にいた人々やイエスの両親に驚くべき印象を与えました。

## ミニスタリングにおいて知識を活用する

ミニスタリングに役立つ、知識というキリストのような特質を身につけるための3つの方法を紹介します:

1. 救い主を知り、主の特質について学ぶにつれ、主が自分の代わりにミニスタリングされるとしたらどうされるかがもっとよく分かるようになります。
2. 福音への知識や理解が深まるにつれ、必要なときに必要なことを聖霊が思い起こさせてくれるようになります(ヨハネ 14:26 参照)。このことは、ミニスタリング先の人々の必要を理解し、その人々の疑問や懸念に答える助けとなります。
3. 学ぶ能力が高まると、もっとうまく人々とつながり、もっとよく人々に仕えることができるようになります。ある事柄に興味を持っている友人とつながりを持つために、その事柄についてもっと学んだり、人々の必要を満たす助けとなる特定の技術を学んだりすることもあるでしょう。

知識を得ることは、様々な面でミニスタリングを行う助けとなります。それだけでなく、「わたしたちがこの世において得る英知の一切は、復活の時にわたしたちとともによみがえる」(教義と聖約 130:18) のです。





## 知識を身につける

知識というキリストのような特質を身につけるにはどうすればよいでしょうか。幾つかアイデアを紹介しましょう：

1. イエスでさえ、少しずつ時間をかけて学んでいかれたことを覚えておきましょう。勤勉に努力しながらも、自分自身に忍耐強くあってください。知識は、「教えに教え、訓戒に訓戒を加え」る（2ニーファイ 28：30）ことで身につけていくものです。
2. 信頼できる情報源を見極める方法を学んでください。（「誤った情報を伝える時代に真理を見いだす」デジタル版『リアホナ』2022年10月号参照）
3. 好奇心を持ってください。日々、身の回りで起こっている事柄から学びましょう。質問をしてください。良い書物を読み、常に情報を得るようにしましょう。（教義と聖約 88：79，118：90：15 参照）
4. 研究によって、また信仰によって学んでください（教義と聖約 88：118 参照）。どのようなことであっても、知的にも霊的にも最善を尽くすことで、真理を理解する能力は向上します。聖霊の助けを受けられるように生活しましょう。■



## さらに知るために

- キリストのような特質を伸ばすことについて、『わたしの福音を宣べ伝えなさい—伝道活動のガイド』（2019年，121–132）で詳しく学んでください。
- 「『学問を求めなさい』という主の指示」（『リアホナ』2022年2月号，26–29）を読んでみましょう。
- メアリー・N・クック姉妹の「学問を求める—皆さんには、なすべき業があります」（『リアホナ』2012年5月号，120–122）という説教から、女性が知識を活用して人々に祝福をもたらす方法を見つけてください。



## 家族は永遠です



### 神の家族

すべての人は、天の両親の霊の息子、娘であり、わたしたちは皆、神の家族の一員です。わたしたちは皆、**神の特質**と神聖な行く末を受け継いでいます。義にかなった生活を送るならば、わたしたちは天の御父の家族の一員として、天の御父のみもとに戻って永遠にともに暮らすことができます。

**家**族は、社会および教会における基本単位です。末日聖徒イエス・キリスト教会の会員は、家族を永遠のものにすることができると信じています。わたしたちは、地上の家族を強めようと努めています。また、永遠の家族という祝福を受けられるという信仰を抱いています。

### さらに学ぶ

末日の預言者が家族について教えていることを学ぶには、ChurchofJesusChrist.org や「福音ライブラリー」アプリで、「家族—世界への宣言」を読むとよいでしょう。ワードや支部には、子供や10代の若者を対象とした、「初等協会」「若い男性」「若い女性」という組織があります。こうした組織の指導者や、自分のミニスタリングブラザーやミニスタリングシスターに、どうすれば子供たちを強められるかを相談するとよいでしょう。



### 永遠の家族

男女が神殿で結婚し、交わした**聖約**を守るならば、二人の結婚は永遠に続きます。この神殿の儀式は、結び固めと呼ばれています。両親が結び固められた後に生まれた子供は、その聖約の下に生まれた子となります。両親が結び固められる前に生まれた子供は、永遠の家族となれるよう、神殿で両親との結び固めを行うことができます。教会員は、家族歴史と神殿の業を行うことで、自分の家族をあらゆる世代にわたってともに結び固めることができます。永遠の家族という祝福は、イエス・キリストとその贖罪のおかげで享受できるようになっています。



### 結婚

男女の間の結婚は、神によって**定められています**。イエス・キリストの福音は、夫と妻が互いに忠誠を尽くし、結婚の聖約に忠実であるようにと教えています。夫婦は、思いと言葉と行いにおいて誠実であるべきです。結婚とは、対等なパートナーとして、夫婦が互いに励まし合い、慰め合い、助け合うべきものです。



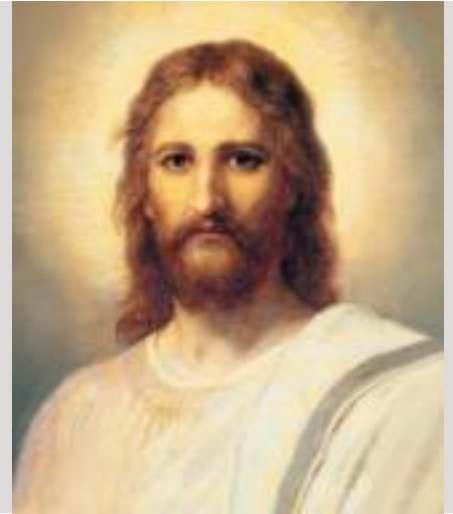
### 親と子供

神は、アダムとエバに子供を持つように命じられました。教会指導者は、この戒めは今なお有効であると教えています。母親と父親は協力して、愛と義をもって子供たちを育てます(教義と聖約 68:25 - 28 参照)。子供たちは親を敬い、従うように教えられています(出エジプト 20:12 参照)。

### 聖文から

親は子供たちに、互いに愛し合い、互いに仕え合うように教えます(モーサヤ 4:14 - 15 参照)。祈りは家族を強めます(3 ニーフアイ 18:21 参照)。神殿で結び固められる人は、永遠の祝福を受けます(教義と聖約 132:19 参照)。





### 教え、学ぶ

親は子供たちに、神を愛し、神の戒めに従うように教えます。家庭生活は、喜びを感じ、忍耐と無私の心を育む機会を与えてくれます。こうした特質は、わたしたちがさらに神のようになり、家族として永遠に幸せに暮らす備えをする助けとなります。

### 家族を強める

実りある家族を築くには、努力と献身と忍耐が必要です。信仰、祈り、赦し、愛、労働、健全な娯楽といった福音の原則は、家庭生活に喜びを見いだす助けとなります。わたしたちは、自分の家族を強める方法を知るために、個人の**啓示**を受けることもできます。

### すべての人が祝福を受けることができる

この地上で理想的な家族の一員となる機会をだれもが得られるわけではありません。しかし神は、戒めを守る人は皆、永遠の家族に伴うあらゆる祝福を受けることができると約束しておられます。わたしたちは神を信頼し、神の時を信じるのであります。■

### 覚えておくとよい言葉



**神の特質**：わたしたちが神の霊の子供として神から受け継いだ特質。

**聖約**：わたしたちが神と交わす約束。神はわたしたちに祝福を与えると約束しておられます。



**啓示**：神が地上の子供たちに靈感を授けられること。

**定められた (Ordained)**：組織された、設けられた、命じられた。「定める」の英語 "Ordain" という言葉は、神権者に執事や長老のような神権の職の権能を授ける、「聖任する」という意味もあります。



## 模範の力

アギム・デダ（アルバニア、ティラナ）

妻に教会について話したとき、最初は耳を傾けてもらえませんでした。ところが、わたしがアルコールをやめ、仕事から早く帰るようになると、妻はわたしの変化に気づいたのです。そうした変化のおかげで、福音を分かち合ったときに、妻が神の御霊を感じられるようになりました。

ストーリーの続き





## どこに行っていたの？

ベルニス・デ・ロス・サントス（ドミニカ共和国、アズア）

天の御父とイエス・キリストが祖母を愛しておられるように祖母を愛することを学ぶ中で、神の時と目的を受け入れなければなりませんでした。

「まあ、どこに行っていたの？」ドアをノックすると祖母にそう尋ねられました。わたしはエルサルバドルでの伝道から帰還したばかりでした。祖母の目は、わたしに再会できた喜びの涙であふれていました。抱き締められると、祖母の腕の柔らかさと温もりを感じました。

伝道についての質問に答えながら、祖母と楽しく会話をしました。伝道地の人々や食べ物、そこで経験した苦労や奇跡について話すうちに、感情が込み上げてきました。話し終わると、祖母が急に静かになりました。すると、こう尋ねるのです。「まあ、どこに行っていたの？」

どうやら、祖母は話を聞いていなかったようです。そこで、また会話を始めました。20分もしないうちに、祖母は3度目の質問をしました。「まあ、どこに行っていたの？」

何かがおかしいと気づきました。それからすぐに、わたしが伝道に出て1年ほどたったころ、祖母がアルツハイマー病と診断されていたことを知りました。

祖母を助けたいと強く思いました。これまでの2年間、わたしは神が御自分の子供たちに抱いておられる愛を伝えてきました。今、その教えに従って生活する機会がやって来たのです。大変なことだとは分かっていましたが、祖母を助けられるよう、祖母の家に越して来て一緒に住むことを申し出ました。

最初の数か月がいちばん大変でした。伝道地で経験したように、忍耐して、気持ちをコントロールすることが日課となったのです。さらに、伝道中と同じように、神の時と目的を受け入れて、天の御父とイエス・キリストが祖母を愛しておられるように祖母を愛することを学ばなければなりませんでした。

祖母との暮らしは、時に3人の人と暮らしているようなも



病気を患っていても、祖母がしてくれることはすべて、わたしへの愛が動機となっていました。

のです。祖母は、家の中にほかの人がいるのに耐えられないときもあれば、世話をしてもらい、気にかけてもらいたがり、一人ではないことを喜んでいるときもあります。伝道から帰還したばかりの孫に何を食べさせようかとばかり考えているときもあれば、「そんなことしないで！」が一瞬で「なんでしてくれないの？」に変わってしまうときもあります。

それでも、祖母の存在はわたしにとって大きな祝福となっています。病気であっても、祖母がわたしのためにしてくれていることはすべて、わたしへの愛が動機だということを知っています。

わたしが学校や仕事から帰ってくる度に、祖母は最も優しく、心の底から出た言葉をかけてくれます。祖母は優しい表情でわたしを抱き締めると、頬にキスをして、愛を込めて「まあ、どこに行っていたの？」と尋ねてくれるのです。■

# 御霊の言葉

アリソン・ウッド (教会機関誌)

自分が力不足だと感じるときでも、御霊が天の御父の愛を伝える手助けをしてくださることを知りました。

夏になると、あるダンスチームの一員としてヨーロッパを巡る旅をしていたことがあります。観客や公演内容、反応は様々でしたが、わたしたちはいつもあることを変わらずに行っていました。毎回ショーの締めには、訪れた国の言葉で、「神よ、また逢うまで」<sup>1</sup>を歌うのです。ダンスチームの大半は末日聖徒イエス・キリスト教会の会員だったため、わたしたちはこの習わしをととても気に入っていました。観客とつながり、天の御父の愛を分かち合うためのすばらしい手段でした。

こうした旅が終わりに近づいていたあるとき、国境を越えてドイツに入ったばかりのわたしたちは、次の公演に向けてこの歌をドイツ語で練習していました。ところが、到着してみると、ドイツのこの地方ではソルビア語という方言が話されており、わたしたちが懸命に練習してきた言葉とは似ても似つかない言葉であることが分かったのです。

公演に向かうバスの中、疲れ果てていたわたしは、到着するまでずっと寝ていたいと思っていました。ところが、ディレクターたちの考えは違った

ようで、ガイドにこの賛美歌をソルビア語に翻訳するように頼んでいました。これから、バスの中で夢うつつになっている出演者全員に、公演の数時間前になって歌を覚えさせようというのです。

わたしたちは最善を尽くしました。ショーの終わりになると、一緒にステージの前に立って歌い始めました。数時間前には何が何やら分からなかった聞き慣れない言葉が、すんなりと頭に浮かんできて驚いたのを覚えています。ほんとうに歌えるのだろうか



かという不安は、言葉を思い起こさせていただけよう御霊に頼ることで薄らいでいくのを感じました。

観客は驚いた様子で、とても感激しているように見えました。歌い終えたとき、会場は静まり返っていました。すると、観客が立ち上がり、わたしたちに向かって歌を歌い始めたのです。その歌は、普段は特別なときにしか歌わない感謝の歌だと後で説明してもらいました。

観客がどのようなことを歌っているのかは分からなかったものの、そのときに、御霊をととても強く感じました。自分は力不足だと感じながらも、主が愛を伝える手助けをしてくださったことに心から感謝しました。天の御父の愛は、どのような状況でも伝わるメッセージであることを思い知らされました。どのような違いがあっても、わたしたちは皆、御霊の言葉を理解することができるのです。■

注

1. 「神よ、また逢うまで」【賛美歌】85番

ダンスを終えて歌い始めると、御霊が歌の言葉を思い起こさせてくださいました。



## 赦せなかった理由

サミュエル・クオスマネン（フィンランド、北オストロボスニア）

悪い感情に打ち勝ち、赦すことができるよう、天の御父に助けを求めて祈りました。

わたしは、ワードの何人かの兄弟たちと一緒に、ある姉妹の引っ越しを手伝っていました。ところが、その姉妹のアパートに着くと、不適切に止められているワゴン車が邪魔になって、その姉妹の所に行くことができないのです。

わたしはワゴン車の側面にあった電話番号に電話をかけ、車を移動させるために来てもらえるよう頼みました。電話に出た男性は、すぐに向かうと約束してくれました。

15分後、また電話をしましたが、電話はつながりません。もう一度電話をかけると、ようやく二人の子供を連れた男性が姿を現しました。すると、この男性は腹を立てて、イラつく言葉をわたしに言い放ったのです。引っ越しを進めながら、わたしはそのことを忘れようと努めました。

その晩、その出来事について考えていたとき、この気持ちを忘れてその男性を赦せるように、天の御父に助けを求めて祈りました。御父は、わたしの祈りにこたえてくださいました。

ところが、それからしばらくして地元の新聞を読んでいると、この男性に関する記事が目に入りました。そこには男性の写真も載っていました。すると、この人への嫌な気持ちがよみがえってきたのです。そこで、同じ過程を繰り返すはめになりました。こんなささいなことで思い煩うことがもうな

いように、その人を赦せるように、助けを求めて主に祈りました。するとまた、穏やかな気持ちになりました。

程なくして、店でこの同じ男性に偶然出くわしました。いまだに嫌な感情が舞い戻って来ることに面食らったわたしは、なぜこの経験を乗り越えることができないのかと主に尋ねました。数日後、主はある教訓を与えてくださいました。

フィンランド・ヘルシンキ神殿の敷地から車を出そうとしていたときのことです。この同じ男性が神殿の庭で働いているのに気づきました。わたしは自分の目を疑いました。すると、理解の目が開かれ、この人も自分と同じように主に仕えており、自分と同じように物事がうまくいかずに気が立ってしまう日もあるのだと理解したのです。それからは、この男性を自分の兄弟として見られるようになりました。新たな視野が開けたことで、この男性への尊敬の念と愛情が湧いてきました。それからは、それまで抱いていた感情は消え去り、二度と戻って来ることはありませんでした。

主がわたしたちを御覧になられているように人々を見るならば、わたしたちは完全に赦すようにという主の戒めに従うことができます（マタイ6：14-15；教義と聖約64：9-10参照）。わたしは、主の深い憐れみを味わったこの忘れ難い経験を、今でも心の中で深く考えています。■



## 息子のために あの輪の中に

ロス・J・デビッドソン・ジュニア (アメリカ合衆国、テキサス州)

父は、わたしが神権に聖任されているときに御霊に語りかけられたことで、生活を一変させました。

わたしが教会に活発になったのは、ビルおじさんに、二人の妹たちと一緒に初等協会に連れて行ってもらったのがきっかけでした。初等協会の教師だったジーン・リチャードソン姉妹は、優しい母親のような姉妹でした。わたしはジーン姉妹や教会の新しい友達のことが好きになりました。近所の子供たちよりもずっと優しく接してくれたからです。そこで、わたしは教会にとどまることにしました。

12歳の誕生日が近づいたころ、ダル・ガイモンビショップから、アロン神権を受けて執事に聖任されることを勧められました。それがどういう意味かはよく分からなかったものの、「はい」と答えると、ビショップはこう言いました。「次の日曜日に教会に連れて来てもらえないかお父さんに頼んでみたらどうかな。そうしたら君を聖任するよ。」

父の家族は、父が13歳のころには教会に行かなくなっていました。大人になってから、父は週末はほとんど地元のパールで過ごすか、フライ・フィッシングをしていました。また、第二次世界大戦と朝鮮戦争では、アメリカ海軍に従軍していました。父はたばこを吸い、お酒を飲み、悪態をついていたものの、モンタナ州の小さな町では正直で公平な人物だという評判でした。

次の日曜、父がわたしを教会に連れて行ってくれたのはかなり大きなこと



でした。時間になると、ガイモンビショップの前に呼ばれて、椅子に座るように言われました。数人の男性がわたしの頭に手を置いて儀式を行いました。父はその中にはいませんでした。

わたしは、何人もの大きな手が重くのしかかっているのを感じていました。数メートル離れた長椅子に座っていた父も、別の意味で胸が押しつぶされるような気持ちを感じていました。すると父は心に、「今度このような機会が訪れたときには、息子のためにあの輪の中にいてあげるべきです」と語りかける声を聞いたのです。

それから数週間のうちに、父は生活を一変させて、毎週日曜日に教会に通うようになりました。程なくして、教会はわたしたち家族の生活の中心となってしまいました。

父はわたしの執事、教師、祭司それぞれの定員会アドバイザーや日曜学校の教師になりました。父はわたしのバスケットボールやソフトボール、バレーボールのコーチでもありました。父がホームティーチングの同僚だったときには、父はほかの男性や家族が教会に活発になれるように手助けをしていました。

父の助けによって、わたしは個人的に変化を遂げる改心を経験しました。それ以来わたしは、父のように、最高の父親になるという招きに応えようとする男性たちに気づくことができるよう努めてきました。

わたしは、60年前にビルおじさんや優しい初等協会の教師、賢明なビショップ、そして父が、わたしのためにしてくれたことを、永遠に感謝し続けることでしょう。■



# 「理想と異なる」 家族の中に

## 神聖な計らいを見いだす

ブリガム・ヤング大学教会歴史・教義学准教授  
ジェネット・エリクソン

現世で「理想の」家族に  
恵まれていないのは  
つらいかもしれませんが、  
わたしたちは現実を  
生かして救い主に  
近づくことができます。

**現**世におけるわたしたちの経験の最も中心的な部分を成す人間関係、すなわち家族関係ほど、大きな意味や喜び、切なる思い、そして痛みをもたらすものはありません。その関係はとて重要であるため、わたしたちの教会の指導者たちは靈感により、「家族—世界への宣言」を发布了。1 宣言で述べられている真理は、家族生活における永遠の幸福へと導く神の規範をわたしたちに知ってほしいと、愛にあふれた御父が切望しておられることを証しています。

大管長会第二顧問のヘンリー・B・アイリング管長は次のように教えています。「この世で最も大切にすべき事柄、すなわちわたしたちが関心を向けることによって幸福を得ることができ、逆に無関心であれば悲しみをもたらすような重要な事柄について、天の御父ははっきりとした指示をお与えになります。なぜならば天の御父は御自身の子供たちを愛しておられるからです。」2 これには、娘や息子、姉妹や兄弟、母親や父親、おばやおじ、祖母や祖父など、この世で果たすかもしれない数多くの神聖な家族内の役割が含まれます。

家族の宣言で述べられている真理は、わたしたちの多くが強く望む「永遠の理想」、すなわち、強固な、幸せな家族関係への道を照らしています。問題は、わたしたちが「この世の現実」の中で生きていることです。「現実」と「理想」の間の隔たりはつらいものです。時には家族の宣言を、わたしたちを導く光として見るのではなく、「理想」をかなえることに失敗したことをわたしたちに痛烈に思い起こさせる言葉として捉えてしまうこともあるかもしれません。

- 結婚を切に願っていても、可能に思えないことがあるかもしれません。
- 結婚して、ひどい離婚を経験





したかもしれません。

- 授かることのできない子供を切に願っているかもしれません。
- 信頼していた家族関係の中で、虐待を経験したかもしれません。
- 愛する家族が行った選択のために、大きな痛みを経験したかもしれません。
- 愛する人たちとの間に一致をもたらそうと最善を尽くしているにもかかわらず、分裂していると感じているかもしれません。
- 切なる思いが満たされず、約束が果たされないことに、幻滅することさえあるかもしれません。

現実において、だれもが家族生活における困難や苦痛、悲しみを知り、中には深く知るようになる人もいます。わたしたちは皆、家族の宣言で述べられている理想の規範から、ある程度それることになるでしょう。

わたしたちが気づかないかもしれないのは、その現実の中にある神聖な計らいです。

### 救い主を求め、救い主に従う

結婚と子供を何年も切望していた独身の女性として、わたしは家族の宣言で述べられている家族生活の理想を達成することが、わたしの人生の基本的な目的であることを望み、信じていました。しかし、誠実に努力しているにもかかわらず、起こるはずだと信じていることを実現できるように思えませんでした。その





苦悩はつらいものでした。

当時、その苦しみを通して主がわたしの心に奇跡的な業を行おうとしておられたことに、わたしは気がつきませんでした。

振り返ると、遂げられることのないわたしの切なる望みは、贖いだけが与えることのおできになる平安と導きを求めて心を傾け、主の完全な愛と、人に能力を授ける力に対する信頼を深めるうえで、神聖な役割を果たしていたのです。毎日の祈りと聖文研究、特に総大会の言葉は、希望と導きの命綱となりました。永遠の御父からの個人的な愛と導きを見出すために、祝福師の祝福やそのほかの神権の祝福の言葉に頼らなければいけないという気持ちに駆られました。

主に心を注ぎ出すと、たとえ苦しい気持ちで背を向けようとしていたときでも、神聖な印象が思いと心に浮かび、自分がどこにいるのか、また自分の人生には素晴らしい計画があり、主を信頼することができるのだと確信することができました。贖い主との聖約によるつながり<sup>3</sup>は、ほかのいかなる充足感や幸福の源にも勝る、深遠な平安と喜びをもたらすものとなりました。

わたしは自分の人生の目的は理想の家族という夢を実現することであると信じていましたが、主は十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老が現世の基本的な目的と呼んでいるものを可能にしてくださっていたことが分かりました。ベニヤミン王の言葉を引用して、ホランド長老は次のように説明しています。

「恐らくその基本的な目的は、……

『主なるキリストの贖罪により……聖徒』

となることであり、そのために

は、わたしたちは『子供のよう

に従順で、柔和で、謙遜で、忍

耐強く、愛にあふれた者とな

り、子供が父に従うよう

に、主がその人に負わせる

のがふさわしいとされる

すべてのことに喜んで従

うことが求められます。』<sup>4</sup>

救い主の助け



と力を必要としたことによって、わたしは主の従順

で、柔和で、謙遜で、忍耐強く、愛のある心を探し、経験するようになりました。その過程で、わたしは人に能力を授ける主の力によって変わりました。そして実際には、それこそわたしが最も心から望んでいたことでした。とても「理想と異なる」と思えたことを通して、最も美しい「理想」への道が開かれていたのです。

わたしの友人であり同僚でもあるタイ・マンズフィールドも、同じような真理について話していました。同性にひかれる経験を持つ男性として、タイは人生の錨をイエス・キリストにしっかりと下ろし、心のすべてを進んで主に委ね、すべての困難な経験がわたしたちの益となるように主にそれらを聖別していただくときに起こる、霊的な成長を目にしました。タイにとって、それは御霊から次のことを教わったときに始まりました。

「結婚したかどうかにかかわらず、わたしは神から無限に愛され、受け入れられていたのです。わたしの責任は、御霊の

導きを探し、導きに従いながら、一日一日を生きていることでした。』<sup>5</sup>そして最終的に、神を信頼することによって、タイは妻と喜びに満ちた美しい永遠の結婚をしました。

### 救い主とより深い関係を築く

自分はいつか結婚するのだろうかと思いつつ、わたしもついに結婚しました。しかし、イエス・キリストに錨を深く



下るす必要性は、夫と結び固められてからも、増したとは言わないまでも、ずっと続きました。不妊に苦しむ中、わたしは再び主に平安を求め始めました。家族生活において、子供なしにどのように自分が願ってきた喜びを得られるのか分かりませんでした。祝福されて二人の子供を授かった後でさえも、わたしは母親としての自分の弱さにしばしば意識を向けました。ずっと望んでいたものをついに手にしたにもかかわらず、幾つかの点で「理想」と「現実」との間の隔たりは大きくなったように思えました。

これらの状況は、現世の目的と、わたしたちの成長のために神によって定められた過程について再び考えるきっかけとなりました。人生の目的は、実際には理想の家族を得ることではないのかもしれませんが。現世には理想は存在しないのかもしれませんが。その代わり、家族は進歩する機会なのかもしれません。

実際、「理想的とは言えない」と感じる非常につらい現実こそが、「理想的な」関係を築くために必要な成長を促すという神聖な目的を果たしているのかもしれませんが。現実と理想の間の深い隔たりはわたしたちをイエス・キリストとのより深い関係へと導き、その関係において主は壊れたと思えるものを癒し、聖別し、その過程の中で知恵と強さと愛を築いてくださいます。その事実こそ、力があるのかもしれませんが。奇跡的に、主の恵みと贖いを通してのみ、わたしたちは天において自分たちが得ることを求めているような人間関係の中で、自分たちが求めているような人になることができるのです。

わたしは、少なくともこの世においては、「完全な」家族関係を築くことは、だれにとっても実際には不可能であると信じるようになりました。しかし、正直さ、高潔さ、偽りのない親密な関係を築くことは可能です。実際、完全さを装ったり期待したりすることは、神や家族やほかの人々に対して偽りのない親密な関係を築く妨げになります。そうではなく、キリストに、家族に、そのほかの人々に、「理想的とは言えない」部分をすべて含めた自分のありのままの姿を見せられるようになるとき、わたしたちは生活の中に主の聖めの力を招き入れることができます。解決の不可能な者を和解させ、わたしたちを主の愛で満たし、主や愛する人々よりも深い関係を持つ者へと変える、主の奇跡的な力を体験することができます。

恐らく家族の宣言の最も神聖な目的は、イエス・キリストのおかげで、「理想的な」家族がわたしたち一人一人にとっての永遠の行く末となり得ることを、わたしたちに確信させることでしょう。

天の両親の愛する息子や娘として、わたしたちは皆、永遠の家族の一員です。現世における比類のない経験は、わたしたちが進歩し、「最終的に永遠の命を受け継ぐ者としての神聖な行く末を実現する」<sup>6</sup>のを助けてくれる、御父の計画に欠かせない要素です。わたしたちの家族が今経験している生活がどれほど理想と異なっているように思えても、主が経験しておられるのと同じ美しい家族生活を実現するための助けなのです。十二使徒定員会のD・トッド・クリストファーソン長老は次のように宣言しています。「イエス・キリストの贖罪は、イエス・キリストを頼るすべての人々の喪失や損失を予測し、最終的に、それらすべてを補【い】ます。御父が子供たちのために準備しておられるすべてのうちの一部にしかあずかれない運命にある人はだれ一人としていないのです。」<sup>7</sup>

主が、「理想的とは言えない」家族の試練のただ中でヤコブに約束されたように、主とわたしたちとの聖約の関係は、次の言葉への確信を与えてくれます。「わたしはあなたと共にいて、あなたがどこへ行くにもあなたを守り、あなたをこの地に連れ帰るであろう。わたしは決してあなたを捨てず、あなたに語った事を行うであろう。」(創世 28:15) わたしたちが主に従うとき、たとえわたしたちの不完全な現実がどのようなものに見えようと、皆がこうありたいと望む姿になり、永遠にわたって崇高な喜びのある家族関係に結ばれるまで、主は「わたしたちを諦める」ことはなさいません。■

#### 注

1. 「家族—世界への宣言」, Church of Jesus Christ.org 参照
2. ヘンリー・B・アイリング「家族」『聖徒の道』1998年10月号, 12
3. ゲレット・W・ゴング「聖約によるつながり」『リアホナ』2019年11月号, 80-83 参照
4. Jeffrey R. Holland, "A Saint Through the Atonement of Christ the Lord" (Brigham Young University devotional address, Jan. 18, 2022), 1, speeches.byu.edu.
5. Ty Mansfield, *Voices of Hope* (2011), 5.
6. 「家族—世界への宣言」
7. D・トッド・クリストファーソン「なぜ結婚、なぜ家族か」『リアホナ』2015年5月号, 52 参照





ブレアウナ・P

わ

わたしは不安定な環境で育ちました。実の両親から虐待され、ネグレクトを受け、多くの困難を経験しました。不安と、自分の身体に対する否定感、拒食症、状況的うつ病と闘い、何年もの間これらに捕らわれていました。

実の両親は神殿で結び固めを受けていましたが、わたしが8歳でバプテスマを受けて間もなく、教会から離れ始めました。そして両親が聖約から遠ざかるにつれ、状況はますます悪くなりました。

14歳のとき、わたしは自閉症の兄弟と母の世話をしていました。

どうすればよいのか、まったく分かりませんでした。自分自身や自分の状況を憎み、自分の人生は決して変わることはない信じていました。

ところが、奇跡が起こりました。実の母は、わたしの世話をできないことを悟り、シンガポールにいる兄弟に電話をして、わたしを養子にしてくれるように頼みました。荷物を詰め、目に涙を浮かべながら、わたしは飛行機に乗り込み、虐待のない新しい生活を始めました。しかし、養子に迎えてくれた家族と新しい文化に適應するのは容易でなく、前進するのに苦労しました。

# 虐待、養子縁組一

## そして癒し

わたしの家族は虐待的で、不安定でしたが、キリストを通して、わたしは今、自分の将来の家族に希望を持つことができます。

養父母はわたしを助けるために全力を尽くしてくれました。わたしはセラピストや医師の助けを受けました。再び教会にも行き始めましたが、わたしを愛し、わたしのために目的を用意しておられる天の御父について学ぶのはつらいことでした。それまで堪え忍んできたすべてのことのために、もうそれを信じていなかったからです。

わたしは幸せではありませんでした。過去からどのように癒されればよいのか分からず、将来に対して依然として希望を持てずにいました。

### 癒されたいと望む

ある日、わたしは現世がどれほど短いかに深く考えていました。不幸なまま人生を過ごしたくありませんでした。試練から学び、教わった福音の原則を生活に取り入れ、自分の人生にキリストを招き入れる必要がありました。

わたしはきっとできると信じてやってみようと思い、毎日ひざまずいて、実の両親を赦し、恐れを信仰に変え、癒しと幸福を見だし、人生において愛に気づく力を天の御父に願い求めました。インスティテュートに行き、聖文を研究し、福音の真理を生活に取り入れ始めました。

わたしはイエス・キリストとその贖罪の持つ癒しの力を心から求めました。時がたつにつれ、わたしの人生は変わり始めました。忍耐し、セラピーと投薬による治療を受け、日々の生活を御霊で満たすにつれ、わたしは癒しを受け始めました。内にこもることが少なくなり、自分をもっと好きになりました。安心感を覚えました。人に奉仕しました。自分自身を愛し、赦し、受け

入れました。健全で愛にあふれた人間関係を築きました。自分に対する天の御父の愛を感じ始めました。そして、人生で初めて、真の喜びを感じました。

### キリストはわたしたちの将来に希望を与えてくださる

過去を変えることはできませんが、教義と聖約第122章7節にあるように、「これらのことはすべて、〔わたし〕に経験

を与え、〔わたし〕の益となる」でしょう。今では、苦難の間、救い主がわたしを支えてくださっていたことを知っています。苦難があったにもかかわらず、変わりたいと望み、主に頼り続けたことによって、わたしは大きく成長しました。

もしあなたが困難な家庭環境にいるなら、あなたには天の御父がいて、御父はあなたを御存じであり、愛しておられ、明るい未来への扉を開いてくださることを知ってください。養子になる前、わたしは自分の環境は決して変わることはないだろう、そして自分と同じように苦しむのではないかという恐れから、自分は結婚することも子供を持つこともないだろう、と自分に言い聞かせていました。しかし、家庭の中でどのような苦しみを経験したとしても、キリストを求めるならば、希望と福音の真理と愛をもって将来の家庭を持ち、永遠の家族を築くことができるのだと学びました。

七十人のクラーク・G・ギルバート長老は次のように教えています。「わたしたち〔は〕……異なる場所から出発し、境遇も異なります。生まれたときに切片が高く、機会に満ちている人がいます。……困難の多い……状況の人もあります。その後、人は個人の成長という傾きに沿って進歩します。わたしたちの将来は、出発点ではなく、傾きによって大きく左右されます。イエス・キリストは、わたしたちの出発点がどこであろうと、神聖な可能性を見ておられます。……主は……人が傾きを天に向けられるように最善の助けを与えてくださいます。」<sup>1</sup>

どのような状況にあっても、イエス・キリストに希望と癒しを見いだすことができます！主はあなたとともにおられ、あなたが常に主を求めるときに、平安と喜びへと導いてくださいます。■

#### 注

1. クラーク・G・ギルバート「キリストにあってさらに大いなるものとなる：傾きのたとえ」『リアホナ』2021年11月号、20





## 慢性疾患にかかったとき

日々の逆境に  
対処することは、思いやりや  
共感する気持ち、そして  
レジリエンスを育む  
助けとなります。

ノーマン・C・ヒル

**母**は衰弱性疾患で亡くなる前、よくほほえんでこう言っていました。「だれも生きたままこの世を去っていく人はいないの。だから、自分たちが受けているものをできるかぎり大切にしなくちゃね。」

母がそう言うのは、元気な日でした。そして母の人生に、元気な日はたくさんありました。

ですが、あまり元気ではない日もありました。そんな日には、母はこう言うのでした。「自分が直面することを受け入れて、それでもまだ世の中で何か善いことを行えるかどうか見てみましょう。」

世界的に見ると、人々は昔よりもはるかに長生きしています。<sup>1</sup>ですが、長生きする一方で、糖尿病やパーキンソン病、がん、うつ病、アルツハイマー病など、様々な慢性疾患を発症する可能性も高くなっています。では、慢性疾患にかかったとき、どのように対応すべきでしょうか。

### 信仰をもって前進する

「思いどおりにいなくても、その状況を受け入れるのです」と、ある兄弟は言います。この兄弟は、障害のために休職を余儀なくされ、家族を養

うために妻が仕事に復帰するようになりました。わたしたちは無理に明るく振る舞おうすることがあまりに多く、それは気持ちを整理したり、物の見方を変えたりする妨げになると、彼は信じています。「信仰をもって前進する代わりに、ただ奇跡を待ち望んだり、奇跡が起きないことにつぶやいたりしていると、わたしたちはそこにとどまることになってしまうのです」と、彼は言います。その兄弟は、聖文や総大会の話の聞いたり、電話で友人や家族と話したりすることで対処しています。

「変わらない毎日が、わたしを落ち込ませるのです」と、夫が慢性疾患を患っているある姉妹は言います。「夫の健康状態は決して良くなることはありません。それは受け入れています。でも、毎日変わらず単調な仕事をこなすのはとても骨が折れることで、精神的、肉体的、霊的に疲れ果ててしまうのです。」彼女はミニスタリングシスターの訪問に感謝しています。「ミニスタリングシスターたちが来ると、ほんとうに明るく元気な一日になるのです。」

「時々、妻とわたしは物忘れをし、互いにいらいらしてしまうんです」と、別の年老いた兄弟は言います。「物





忘れがひどいことにいらいらして、互いに怒りの言葉を言い合った後は、特に後悔します。」彼らは、忘れないようにメモを取るようになりました。話す前に、互いに落ち着くための時間を取るようになっています。「そして、『ありがとう』と『愛しているよ』を言うことの大切さをさらに学びました」と彼は言います。

別の年配の夫婦は、毎月決まった収入で生活していましたが、薬の値段が2倍になってしまいました。家族とワードのおかげで、彼らは必要に対処することができました。「最初は、特に子供たちに助けを求めることを恥ずかしく思いました」と、その兄弟は言います。「でも、皆、助けたいと思ってくれました。」

## 提案や意見

慢性疾患を患う人々からの提案や意見を幾つか紹介します：

1. 救い主に頼る人は希望を見いだします。「自分が経験していることはだれも理解できないと思っていました」と、慢性疲労症候群（CFS）の兄弟は言います。「そしてある日曜日、聖餐を取っていたとき、救い主は自分の苦しみを理解しておられるということに気づきました。主に近づくことによって堪え忍ぶことができるのだと分かったのです。」（アルマ7：11 - 12；教義と聖約121：8；122：8参照）
2. 「よく堪え忍ぶ」（教義と聖約121：8）人は思いやりが増していく。「悲しみと苦難の中にあるときには、だれに助けと慰めを求めるべきでしょうか。……苦しみを経験した人々です。彼らは自分の苦しい経験から、同情や慰めを豊かに注いで、今苦しんでいる人を祝福することができるのです。苦しみを味わったことのない人にそのようなことができるでしょうか。」<sup>2</sup>
3. 一日一日を着実に全うする。「何年か前のこと、痛みがとてもひどくなり、もうこれ以上は無理だと思いました。自殺が頭に浮かびました」と、多発性硬化症（MS）を患っている姉妹は言います。彼女は自ら病院のメンタルヘルスの病棟に行きました。カウンセリングを受ける中で、彼女のモットーは単に「最後まで堪え忍ぶ」（1ニーファイ22：31）ではなく、「一日の最後まで堪え忍ぶ」に変わりました。
4. 新たな興味を育み、奉仕する新しい方法を見つける。できなくなったことについて悲しむのではなく、新たに情熱を注げることを見つけてください。

MSを患っている姉妹は、乗馬やソフトボールなど、以前好きだった事柄はもうできないことを知りました。代わりに、カリグラフィーを学びました。今では、新たに伸ばした才能を使って、家族のためにモルモン書の装飾写本を作っています。

慢性疾患が人生において現実となる  
とき、確かに困難が訪れます。しかし、  
キリストに対する信仰と希望、奉仕し続  
けたいという望みがあれば、日々の逆  
境に対処することが、思いやりや共感す  
る気持ち、そしてレジリエンスを育む助  
けとなります。■

筆者はアメリカ合衆国ユタ州在住です。

## 注

1. See Susanne Reiff, "Increasing Life Presidency: People Are Getting Older and Older," *Alumniportal Deutschland*, Sept. 2017, [alumniportal-deutschland.org/en/global-goals/sdg-03-health/increasing-life-expectancy-ageing](http://alumniportal-deutschland.org/en/global-goals/sdg-03-health/increasing-life-expectancy-ageing).
2. Orson F. Whitney, "A Lesson from the Book of Job," *Improvement Era*, Nov. 1918, 7.





中央日曜学校会長会  
第一顧問  
ミルトン・カマルゴ  
兄弟



# 霊的な土壌を 整えましょう

種まきのたとえば、今年『わたしに従ってきなさい』で新約聖書を研究するに当たって自分自身を備える助けとなります。

**新**約聖書の中でわたしの好きなたとえの一つが、マタイによる福音書第13章3-23節にある種まきのたとえです（マルコ4:3-20；ルカ8:5-15も参照）。このたとえでは、人々が御言葉（種）をどのように受け入れるかが、異なる種類の土壌にたとえられています。それぞれの土壌には重要な特徴があることが学べます。良い特徴、または悪い特徴です。

わたしたちは度々このたとえを読み、これは人々が進んで福音を受け入れ、福音に従って生活する度合いについて述べているのだと考えます。それは正しいですが、このたとえはまた、わたしたちが信仰と福音の知識において成長していく中での個人の進歩についても述べているのではないかと思います。言い換えれば、わたしたちの信仰は永久に特定の種類や段階にとどまるわけではないということです。信仰と努力によって、わたしたちは自分の霊的な土壌を改善し、より良い実を結ぶことができるのです。

この考えはわたしにとって、このたとえをより深く理解する助けになったので、皆さんと一緒に考えてみたいと

思います。これから1年間『わたしに従ってきなさい』で新約聖書を研究するための準備として、種まきのたとえを振り返ることは、福音の真理を受け入れるように心を備える助けとなるでしょう。

## 福音の種を受け入れる

このたとえでは、種まきが種をまくと、次のことが起こりました：

- ある種は道ばたに落ち、鳥に食べられてしまいました。
- ある種は石地に落ちました。それらの種は芽を出しましたが、日に焼けてしまいました。
- ある種はいばらの中に落ち、いばらにふさがれてしまいました。
- ある種は良い地に落ち、実を結びました。

主は次のように説明しておられます。

「だれでも御国の言を聞いて悟らないならば、悪い者がきて、その人の心にまかれたものを奪い取って行く。道ばたにまかれたものというのは、そういう人のことである。

石地にまかれたものというのは、御言を聞くと、すぐに喜んで受ける人の





ことである。

その中に根がないので、しばらく続くだけであって、御言のために困難や迫害が起ってくると、すぐつまずいてしまう。

また、いばらの中にまかれたものとは、御言を聞くが、世の心づかいと富の惑わしとが御言をふさぐので、実を結ばなくなる人のことである。

また、良い地にまかれたものとは、御言を聞いて悟る人のことであって、そういう人が実を結び、百倍、あるいは六十倍、あるいは三十倍にもなるのである。」(マタイ 13:19 - 23; 強調付加)

それぞれの種類の土壌を見て、より良い土壌とするために何ができるかを見てください。

### 道ばたの土壌

大管長会第一顧問のダリン・H・オークス管長は次のように言っています。「『道ばたに落ちた』(マルコ 4:4) 種というのは、土まで届かなかったために生長できなかった種のことです。それはちょうど、かたくなな心や備えのできていない心にまかれた教えのようなものです。』<sup>1</sup>

加えて、時々心が準備できていないために、聖文の中で聞いたり読んだりした事柄を理解できないこともあります。その場合、わたしたちは何をすべきでしょうか。

理解している人に説明を求めることができます。宣教師や日曜学校教師、神権指導者や組織指導者、セミナーやインスティテュートの教師、ミニスターングをしてくれる人、信仰深い親や家族に尋ねてもよいでしょう。総大会の説教を研究することもできます。「福音ラ





イブラリー」アプリには、さらに理解を深める助けとなるリソースが数多く提供されています。

また、さらなる光を求めて、神に祈るべきです。キリストを信じて、誠心誠意問うならば、福音の真理についての知識を授かるでしょう（モロナイ 10：4 - 5 参照）。主は次のように言っておられます。

「求めなさい。そうすれば、与えられるであろう。捜しなさい。そうすれば、見いだすであろう。たたきなさい。そうすれば、開かれるであろう。

すべて求める者は与えられ、捜す者は見だし、たたく者には開かれるからである。」（3 ニーフアイ 14：7 - 8）

### 石地の土壤

ある人たちは宣教師を通して回復された福音を聞き、キリストの愛を感じ、教会の集会に楽しんで出席します。しかし、長い期間にわたって、人生の困難は続きます。人生が絶えず祝福が流れてくる小川に変化したわけではないことに気づきます。信仰が弱まり、流されていきます。

集会や大会に出席するときに「石地」に気づき、霊が鼓舞されてその瞬間から何でも行おうと思う人もいます。しかし、月曜日になれば自分たちの日常の責務に戻っていきます。職場での試練は依然として困難なままです。誘惑が抗し難いほど魅力的に思えます。そして霊的に向上したいという望みが薄れたり、消えていったりします。

彼らは、風に飛ばされないようにつなぎとめ、飢えているときに養い、太陽の熱にさらされる時に力を与えてくれる霊的な根が深く張ってなければ、霊的に滅びてしまうかもしれないことを、身をもって知るのでした。

石地の土壤をどのように改善できるでしょうか。石を取り除き、霊的な根を深く張ってください。

石を取り除くのは容易でないかもしれません。信仰が強められるような環境を作り出す必要があるかもしれません。新たな友情を築き、悪から遠ざかる必要があるかもしれません（1 テサロニケ 5：22 参照）。

石を取り除く強さを得るには、救い主の助けが必要です。その強さは、主が与えてくださる聖約を受け入れるときに授か



ります。それはまず、バプテスマを受けるようにという招きを受け入れることから始まります。確認を受け、聖霊の賜物を受けることを意味します。神権を授かり、神殿に参入するなど、まだ交わしていない聖約をすべて受け入れることを意味します。毎週教会に出席し、聖餐にあずかることで聖約を新たにすることを意味します。

試練や誘惑に遭うとき、わたしたちは主と交わした聖約にしっかりとつかまることが出来ます。「自分が受け入れた義務を忠実に覚え、それに従って生活しようと最善を尽くすとき、わたしたちは救い主と固く結ばれます」と、十二使徒定員会のデビッド・A・ベドナー長老は述べています。「そして、主とのそのきずなこそが、人生のあらゆる時季に霊的な力の源となるのです。」<sup>2</sup>

## いばらの中の土壌

この土壌では、いばらを含め、植物が成長します。いばらとは、「生活の心づかいや富や快樂」であり、「実の熟するまでにならない」(ルカ8:14)原因となる恐れのあるものです。

聖約を受け入れても、もう聖約の道を歩まなくなったらどうなるでしょうか。聖餐を受けても、もう自分の過ちについて考えることすらしないために、赦しを求めません。あるいは赦しを求めても、ほかの人を赦すのを拒むかもしれません。神殿の聖約を受け入れても、困っている人にミニスターリングをしません。不適切だと思われるのではないかと、相手を当惑させるのではないかと恐れ、またはもう何を言うべきか分からないので、福音を分かち合う機会を無視します。

解決策は、バプテスマを受けたときに交わした聖約に従って生活し、「悲しむ者とともに悲しみ、慰めの要る者を慰め……、いつでも、どのようなことについても、どのような所においても、死に至るまでも神の証人になること」(モーサヤ18:9)です。

わたしたちは日々悔い改め、大小様々な調整を行い、聖約の細くて狭い道に戻ることで、雑草を取り除きます。

わたしたちは人生の雑草にふさがれるのを拒みます。その方法として、わたしたちは家庭を信仰の聖所に変えます。

御霊の影響を招くものは何であろうと追い求めます。その影響を追いやるものは何であろうと拒みます。そして神の王国で、すなわち召しにおいて、神殿において、伝道活動において、家庭において奉仕します。

## 良い地

御言葉を聞き、理解し、心の中で育む人もたくさんいます。その人たちに対して、主は次のように言われます。「わたしがあなたがたを選んだのである。そして、あなたがたを立てた。それは、あなたがたが行って実をむすび、その実がいつまでも残るためであ[る]。」「(ヨハネ15:16)そのような人たちにとってのさらなる改善策は、信仰をもって前進し、善い行いをして堪え忍ぶことです。

オックス管長は、「わたしたちは自らの生活で救い主の教えをどのように取り入れたらよいのでしょうか」<sup>3</sup>と問いかけています。今年、新約聖書を研究する準備をするに当たり、御言葉を受け入れるために、救い主に近づき、自分の霊的な土壌を改善することができますように。そのときわたしたちは、自分を神と結んでくれる聖約を受け入れ、新たにすることによって、神に仕え、隣人を愛することによって、そしていつか天の家にたどり着くことになる聖約の道を歩むことによって、主がわたしたちに求めておられる実を結ぶことができるのです。■

## 注

1. ダリン・H・オックス「種まきのたとえ」『リアホナ』2015年5月号, 32
2. デビッド・A・ベドナー「神の力をもって、大いなる栄光のうちに」『リアホナ』2021年11月号, 29
3. ダリン・H・オックス「種まきのたとえ」『リアホナ』2015年5月号, 32





# キリストの使命と務めとは何であったか

**イ**エス・キリストは前世で、地上にやって来てわたしたちの救い主になると聖約されました（モーセ4：2；アブラハム3：27参照）。救い主として、主は御自分の使命と務めの両方を成し遂げられました。

ラッセル・M・ネルソン大管長は次のように説明しています。「現世における主の使命とは、贖罪を成し遂げ、……永遠の命を、それを受ける資格のある人がだれでも受けられるようにすることでした。……主の務めとは、主が行われたそのほかのすべてのことです。主は奇跡を行い、教え、愛し、儀式に焦点を当て、わたしたちに祈り方を教えられました。」<sup>1</sup>

キリストの使命と務めの数々の側面が、聖文のたくさんの箇所でも述べられています。ルカ1：46－55でイエスの母マリヤが述べている事柄について考えてください。同じく従順の模範であったハンナも、サムエル上2：1－10で、主の務めについて同様の祈りをささげています。

『わたしに従ってきなさい』のテキストで提案されているように、これらの言葉をマタイ5：3－12にあるイエスの至福の教えと比較することができます。<sup>2</sup>

これらの聖句で述べられているキリストの務めの側面をいくつか挙げてみるとよいでしょう。例として、一つの側面を挙げます：

- キリストはわたしたちの霊的な飢えを満たすために来られた（サムエル上2：5；ルカ1：53；マタイ5：6参照）。

## 話し合い

救い主の務めのこれらの側面は、あなた個人にどのように当てはまるでしょうか。

## 注

1. “The Mission and Ministry of the Savior: A Discussion with Elder Russell M. Nelson,” *Ensign*, June 2005, 19.
2. 『わたしに従ってきなさい—個人と家族用：新約聖書 2023年』7参照





# わたしはどのようにイエス・キリストの証人になれるだろうか

**イ**エス・キリストがお生まれになったとき、イエスが約束された救い主であられることを認めた人々が何組かいました。マリヤとヨセフのほか、そのような人々として、羊飼いたち、シメオン、アンナ、そして後に、博士たちがいました。彼らはイエス・キリストの神性について証を述べました。

家族や友人は、わたしたちが救い主についての自分の証を分かち合うことのできる最も大切な人たちです。「わたしたちはキリストのことを話し、キリストのことを喜び、キリストのことを説教し、キリストのことを預言し、また、どこに罪の赦しを求めればよいかを、わたしたちの子孫に知らせるために、自分たちの預言したことを書き記すのである。」(2 ニーファイ 25 : 26)

## 話し合い

わたしたちはどのような方法で、「いつでも、どのようなことについても、どのような所においても」(モーサヤ 18 : 9) 救い主の証人になることができるでしょうか。



**羊飼いたち**

ルカ 2 : 15 - 18



**シメオン**

ルカ 2 : 25 - 33



**アンナ**

ルカ 2 : 36 - 38



**博士たち**

マタイ 2 : 11

## 活動

これらの証人たちが初めてイエス・キリストにまみえたときにどうしたかを読んでください。その後、自分の証を家族や何人かの友人に分かち合うか、日記に書き留めるとよいでしょう。

「最も基本的な意味で、イエス・キリストの証人になるというのは、キリストが神の聖なる御子であり、世の救い主、贖い主であられるという、確かな自分自身の証を持つことです。」

十二使徒定員会 D・トッド・クリストファーソン長老「キリストの証人になる」[リアホナ] 2008年3月号, 59







# わたしたちは世の光からどのような祝福を受けているだろうか

**ヨ**ハネは「光についてあかしを[する]ため、すなわち「すべての人を照すまことの光があつて、世にきた」(ヨハネ1:7, 9) ことを証するために来ました。「光は、……神の御前から発して」いて、「万物に命を与え」(教義と聖約 88:12-13) ます。



**光はわたしたちにどのような祝福をもたらすでしょうか**  
アルマ 19:6; 36:20; 教義と聖約 88:67 参照

**光は何と関連しているでしょうか**  
教義と聖約 84:45 参照

**わたしたちはどのようにしてますます光を受けようになるでしょうか**  
教義と聖約 93:28 参照

**世の光はどなたでしょうか**  
ヨハネ 8:12; 3 ニーファイ 18:16, 24 参照

ロレンゾ・スノー大管長(1814-1901年)は次のように教えています。「わたしたちは、人類家族を照らす霊が全能者の前から発せられていること、全宇宙に広がっていること、それは万物の光であり命であること、そしてすべての正直な心が、その人の徳と高潔さと、真理を知り同胞に善を行いたいという望みの度合いに応じてそれを持っていることを信じています。」(*The Teachings of Lorenzo Snow*, ed. Clyde J. Williams [1996], 107)

## 話し合い

「あなたがたの光を人々の前に輝かし、そして、人々があなたがたのよいおこないを見て、天にいますあなたがたの父をあがめるようにしなさい」(マタイ5:16)という救い主の教えに、どのように従えるでしょうか。



マタイ3章；  
マルコ1章；ルカ3章

## バプテスマを通してどのように 従順さを示すか

**救**い主は天の御父に従順であることの完全な模範であり、「わたしは、……わたし自身の考えでするのでなく、わたしをつかわされたかたのみ旨を求めている」(ヨハネ5:30)と宣言しておられます。

救い主は、天の御父に完全に従順であることを示すためにバプテスマを受けられました。同様に、バプテスマを受けることによって従順さを示すとき、わたしたちはイエスキリストの献身的で従順な弟子になることを神と聖約します。(2ニーファイ31:5-13参照)

### 話し合い

家族で、または個人で、バプテスマのときに交わした聖約を復習してください(モーサヤ18:8-10; 教義と聖約20:37参照)。日々の生活の中でこの聖約を守るためにどのようなことができるでしょうか。

救い主の従順さの一例を、主がバプテスマを受けられたときの記録に見ることができます。

「そのときイエスは、ガリラヤを出てヨルダン川に現れ、ヨハネのところにて、バプテスマを受けようとされた。

ところがヨハネは、それを思いとどまらせようとして言った、『わたしこそあなたからバプテスマを受けるはずなのに、あなたがわたしのところにおいでになるのですか。』

しかし、イエスは答えて言われた、『今は受けさせてもらいたい。このように、すべての正しいことを成就するのは、われわれにふさわしいことである。』(マタイ3:13-15)。

空欄を埋めてください

あなたは次の文をどのように完成させますか。

バプテスマは\_\_\_\_\_です。  
2ニーファイ31:17-18、およびJ・デビン・コーニッシュ「バプテスマという門」『リアホナ』2015年2月号、17を参考にすることができます。







# もし水をぶどう酒に変えることが おできになるのであれば……

この見過ごされがちな奇跡からわたしが学んだ3つのこと。



編集者より：この記事は、イエスが行われた奇跡から学べることを探究する新約聖書の学習シリーズの一部です。

教会機関誌

アダム・C・オルソン

**ヨ**ハネは、救い主が水をぶどう酒に変えられたことについて福音書で述べている唯一の著者です（ヨハネ 2:1-11 参照）。それが救い主の「最初のしるし」（ヨハネ 2:11）であったとわたしたちに告げるほど、ヨハネはこの出来事に対して強い思いを抱いていました。

文化的には、ぶどう酒を切らしてしまうことは、関係者たちの社会的な立場を傷つける恐れがありました。<sup>1</sup> 奇跡が人生を変える劇的なものである必要はないと思いますが、それでも人々の人生を変えた劇的な奇跡がたくさんあった中で、なぜヨハネはこの奇跡のことをそれほど重要に感じていたのか、わたしは不思議に思ってきました。

### なぜ奇跡か

救い主の務めの期間を通じて、奇跡がそれほど重要だったのはなぜでしょうか。助けに必要な人々に対する主の哀れみは、確かにその理由の一つでした（マルコ 1:41 参照）。加えて、奇跡は主の神聖な力と権能を示す重要な証拠でした（マルコ 2:5, 10-11 参照）。そして奇跡的な出来事には、信仰を強め、主のメッセージに注意を向けさせる力がありました（ヨハネ 2:11; 6:2 参照）。

その後、ある人が、救い主の奇跡はメッセージを聞くように人々を導いただけでなく、メッセージを教えるのにも役立ったことを指摘してくれました。<sup>2</sup> 水をぶどう酒に変えられたことからイエス・キリストとその神聖な使命についてどのようなことを学べるだろうかと自問したとき、新しい事柄が見え始めました。

救い主と、主が持つておられる人を救う力について、カナでの奇跡からわたしが学んだ3つの教訓を紹介します。

### 1. 「わたしの時は、まだきていません」

マリヤがイエスに助けを求めたとき、イエスは、「わたしの時は、まだきていません」（ヨハネ 2:4）と返答されました。これ以上の詳細はなく、ヨハネの記録からは具体的にマリヤが何を

期待していたのか、また、イエスがどういう意味で御自分の時はまだ来ていないと返答されたのかは明らかではありません。

この言葉は重要なものとしてわたしの目を引きました。イエスは、御自分の公の務めを始めることなど、何か近い将来の出来事に言及しておられたとも考えられます。しかし同時に、この言葉はヨハネの記録の全体に響き渡っており、しばしば主の贖いの犠牲という究極の奇跡を指し示しています（ヨハネ 4:21-23; 5:25-29; 7:30; 8:20 参照）。最後に、この言葉は主の現世での務めが終わりを迎え、「イエス [が] この世を去って父のみもとに行くべき自分の時が来たことを知 [った]」（ヨハネ 13:1; 強調付加。ヨハネ 12:23, 27; 16:32 も参照）ときに、再び繰り返されています。そしてゲツセマネに向かう前に、主は次のように祈られました。「父よ、時がきました。あなたの子があなたの栄光をあらわすように、子の栄光をあらわして下さい。」（ヨハネ 17:1; 強調付加）

ヨハネが記録の至る所でこの言葉を繰り返すのを目にすることで、わたしは初めから終わりを見ることができました。最初に、イエスは身体的な渇きを満たすために水をぶどう酒に変えられました。そして最後に、主は聖餐のぶどう酒を用いて御自分の贖いの血を表されました。主の贖いの血のおかげで、永遠の命を得ることが可能となり、主を信じる者は決して再び渇くことがないのです（ヨハネ 4:13-16; 6:35-58; 3 ニューファイ 20:8 参照）。

### 2. 「このかたが、あなたがたに言いつけることは、なんでもして下さい」

イエスに助けを求めた後、マリヤは僕たちに次のように言いました。「このかたが、あなたがたに言いつけることは、なんでもして下さい。」（ヨハネ 2:5）この言葉には一つの教訓があり、この話とエジプトのヨセフの話にはとても興味深い類似点があります。

「やがてエジプト全国が飢えた時、民はパロに食物を叫び求めた。そこでパロはすべてのエジプトびとに言った、『ヨセフの





わたしたちがイエスの言われることを  
何でも進んで行くなら、主はわたしたちの  
生活の中で奇跡を起こすことができになります。

なら、主はわたしたちに対しても同様に行い、わたしたちの生活の中で奇跡を行うことができになります（ヘブル 10：35 - 36 参照）。救われることは、主のあらゆる奇跡の中で最も大いなる奇跡であり、そのためには従順さが求められます（教義と聖約 14：7；信仰簡条 1：3 参照）。

### 3. 「彼らは口のところまでいっぱいに入れた」

救い主は僕たちに、6つの石の水がめを水で満たすように指示されました。そこで「彼らは口のところまでいっぱいに入れ」（ヨハネ 2：6 - 7）ました。

その量について専門家たちの意見は様々ですが、それぞれのかめに数十リットルは入ると考えて間違いないでしょう。数リットルと数百リットルのどちらの水をぶどう酒に変える方が難しいのかは分かりませんが、わたしの人生を変えたのは、イエスはあるものをまったく異なるものに変える力を持っておられるという理解です。主はただぶどう酒の味がする水を造られたのではありませんでした。簡単な分子構造を持つ水を、何百もの化合物の複雑な混合物であるぶどう酒に変えられたのです。

もしそれがおできになるのであれば、主はわたしの困難を祝福に変えることができになります。ただ嵐に希望の兆しを加えるのではなく、実際に試練の中身をわたしを祝福する何かに変えてくださるのです（ローマ 8：28；2 ニーファイ 2：2 参照）。

そしてもし一つの困難についてそのように行うことができになるのであれば、主はすべての困難についてそうすることがおできになります。ですから、人生の水がめが試練で満ちているように思えるときには、主は水をぶどう酒に変えることができになることを覚えていてください。主は灰に代えて冠を与えることができになります（イザヤ 61：3 参照）。悪を善に変えることができになります（創世 50：20 参照）。わたしの過ちを成長に変え、わたしの罪を引き受け、それを罪の宣告から進歩に変えることができになります。<sup>3</sup>

わたしにとって、その理解は何にも増して重要です。かつてわたしが見過ごしていたこの奇跡は、わたしに次のことを教えてくれました。主の力を通して、もしわたしたちが主の求められることを行う信仰を持つなら、主は過去のわたしたちから、わたしたちをなり得る姿へ、主のような者へと、わたしたちを変えることがおできになるのです。■

#### 注

1. See Peter J. Sorensen, "The Lost Commandment: The Sacred Rites of Hospitality," *BYU Studies*, vol. 44, no. 1 (2005), 4-32.
2. See Bible Dictionary, "Miracles."
3. ブルース・C・ヘーフェン「贖い—すべてを受けるためにすべてをささげる」『リアホナ』2004年5月号, 97-99 参照

もとに行き、彼の言うようにせよ。』」（創世 41：55, 強調付加）  
マリヤはこのように結びつけるつもりはなかったかもしれませんが、恐らくヨハネもそうでしょう。しかし、その類似点に気づいたとき、わたしは二つのことを思いました。

まず、旧約聖書に出てくるヨセフやそのほかの人物がイエス・キリストとその使命をあらかじめ示している、もう一つの例を見つけたということです。しかし、さらに重要なこととして、エジプトの話とカナの話はわたしに次のことを思い起こさせてくれました。すなわち、イエス・キリストはその贖罪を通してわたしたちを罪と死から救うことができになるだけでなく（それを主は後にパンとぶどう酒で表されますが）、わたしたちを身体的、社会的、そしてそのほかの困難からも救うことができになるということです。民のパンが尽きたとき、バロは民に、ヨセフの言うことを何でもするように言いました。民はそうに行い、パンを得て、身体的な苦しみから救われました。僕たちのぶどう酒がなくなったとき、マリヤは彼らに、イエスの言われることを何でもするように言いました。僕たちはそうに行い、ぶどう酒を得て、関係者たちは自分たちの義務を果たせない状況から救われました。

わたしたちがイエスの言われることを何でも進んで行く

# カナの婚礼での奇跡

「イエスは、この最初のしるしをガリラヤのカナで行い、その栄光を現された。そして弟子たちはイエスを信じた。」

ヨハネ 2:11





ヤングアダルト

不完全な現実の中に  
目的を見いだす

30

人間関係

困難を乗り越える

8

親

不可欠な家族の  
会話をする方法

12

新シリーズ：イエスの奇跡

今日のわたしたちに  
どのように  
当てはまるでしょうか

46



JAPANESE



4 02189 04300 5